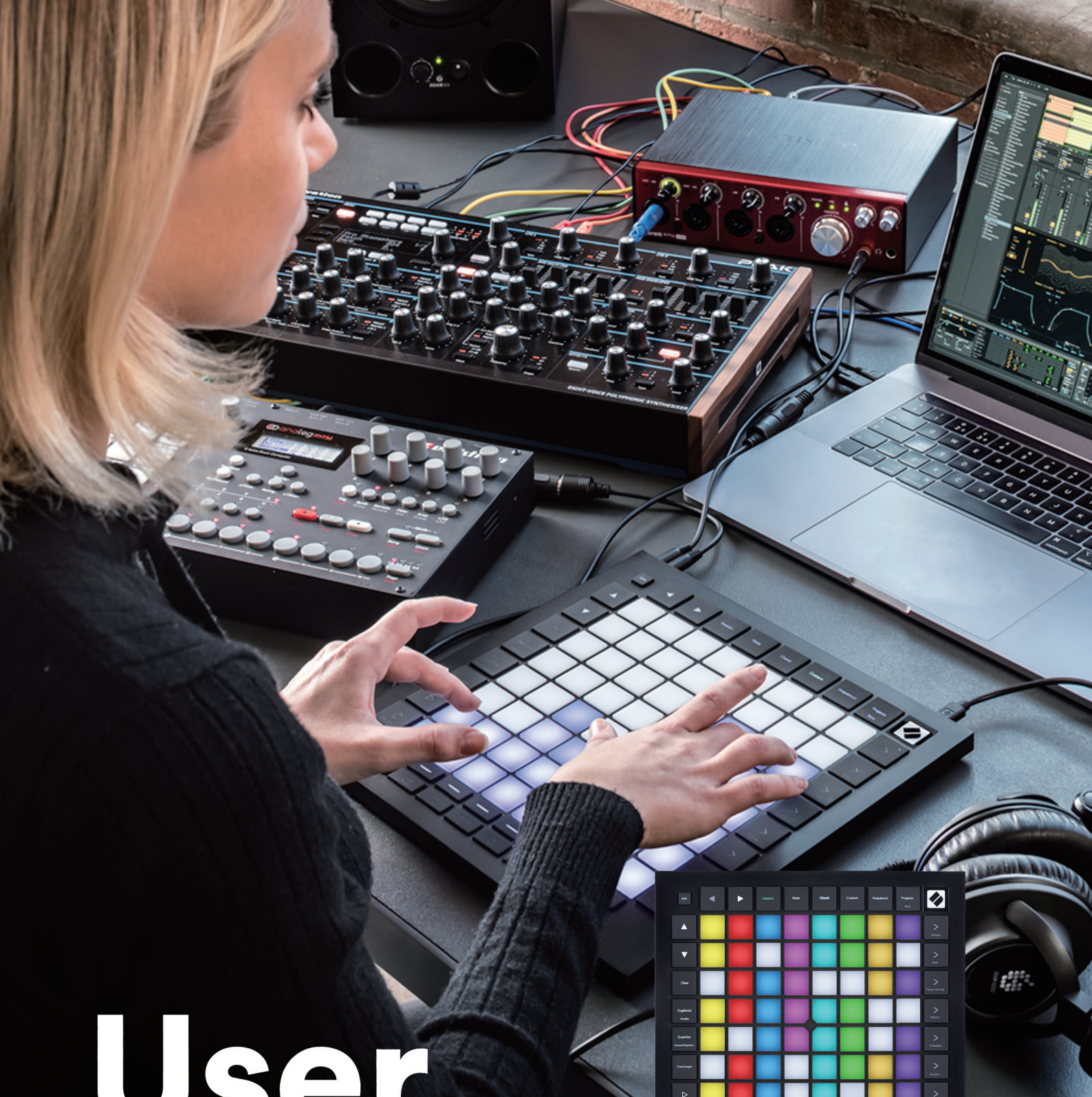
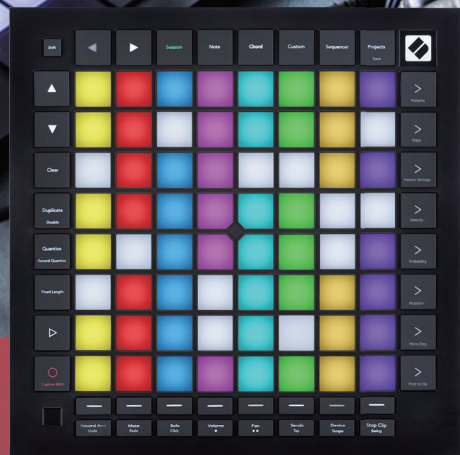




User Guide

LAUNCHPAD PRO



警告:

本製品を通常に動作させている場合にも、強力な静電放電 (ESD) の影響を受ける可能性があります。このような場合には、USB の接続を一度解除し、再度接続することで再起動をお試しください。通常の動作が回復します。

商標

Novation の商標は Focusrite Audio Engineering Ltd. が所有しています。このマニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

免責事項

Novation は、ここに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために可能なすべての措置を講じています。いかなる場合でも、Novation は、本マニュアルまたはそこに記載されている装置の使用に起因する装置、第三者または装置の所有者に対する損失または損害についていかなる責任も負いません。本書に記載されている情報は、事前の警告なしに変更することがあります。仕様および外観は、リストおよび例示されているものとは異なる場合があります。

著作権表示と法定通知

Novation は Focusrite Audio Engineering Limited. の登録商標であり、Launchpad Pro は Focusrite Audio Engineering Limited Plc. の登録商標です。

2019 © Focusrite Audio Engineering Limited. 無断転用禁止。

Novation

Focusrite Audio Engineering Ltd. の一部門
Windsor House, Turnpike Road
Cressex Business Park, High Wycombe
Buckinghamshire, HP12 3FX
United Kingdom

電話: +44 1494 462246
ファックス: +44 1494 459920
e-mail: sales@novationmusic.com
ウェブサイト: www.novationmusic.com

目次

1. はじめに.....	6
1.1 Launchpad Proの主な機能.....	6
1.2 同梱物.....	7
2. 使用準備.....	7
2.1.1 Macを使用する場合:.....	7
2.1.2 Windowsを使用する場合:.....	8
2.2 Launchpad Intro	9
2.3 Ableton Live.....	10
2.4 その他のソフトウェアと使用する.....	10
2.5 スタンドアロンで使用する.....	10
2.6 お困りの場合	10
3. 各部の名称と特徴	11
4. Launchpad Proインターフェース.....	12
4.1 モード.....	12
4.2 Shift	13
5. セッションモード	14
5.1 Ableton Liveのセッションビュー	14
5.2 セッションオーバービュー.....	16
5.3 クリップの機能.....	16
5.3.1 一つのクリップまたは空のクリップスロットを選択する.....	16
5.3.2 クリップを削除する.....	17
5.3.5 クリップをクオンタイズする	17
5.4トラックコントロール.....	18
5.4.1 Record Arm.....	19
5.4.2 ミュート.....	19
5.4.3 Solo	19
5.4.4 Volume.....	19
5.4.5 Pan.....	19
5.4.6 Send.....	19
5.4.7 Device	19
5.4.8 Stop Clip.....	19
5.4.9 フェーダーの仕組み	20
5.5 録音アーム & 録音	20
5.6 ショートカット機能.....	20
5.6.1 Undo.....	21
5.6.2 Redo.....	21
5.6.3 Tap (タップテンポ)	21
5.6.4 Click (メトロノーム)	21
5.7 モーメンタリ(一時的な)ビュー切り替え.....	21
6. ノートモード	22
6.1 概要.....	22
6.2 クロマチックモード.....	22
6.3 スケールモード.....	23
6.4 ノートモード設定	
6.5 オーバーラップ	25
6.6 ドラムモード	26
7. コードモード.....	27

7.1 概要.....	27
7.2 トライアド(三和音)	27
7.3 ノートエリア	27
7.4 コードの保存 & 呼び出し	28
7.5 サステインコントロール	28
8. カスタムモード	29
8.1 概要.....	29
8.2 デフォルトカスタムモード	29
8.3 カスタムモード マスターMIDIチャンネル.....	30
8.4 カスタムモードのセットアップ	31
8.5 外部MIDIを使ってパッドを点灯させる	32
9. シーケンサー	33
9.1 シーケンサー概要.....	33
9.2 ステップビュー	33
9.2.1 プレイエリアを使用する.....	33
9.2.2 ステップにノートをアサインする.....	34
9.2.3 ステップの削除.....	34
9.2.4 ステップの複製.....	34
9.2.5 再生	35
9.2.6 シーケンサーに録音する.....	35
9.2.7 ゲートの長さを設定する	35
9.2.8 複数のシーケンサートラックを使用する.....	36
9.2.9 シーケンサーをAbleton Liveと使用する	36
9.3 パターンビュー	37
9.3.1 パターンをチェーン化する	38
9.3.2 パターンのキュー	38
9.3.3 パターンの削除.....	38
9.3.4 パターンの複製.....	38
9.3.5 即座にパターンを変更する	38
9.4 シーン	39
9.4.1 シーンにアサインする	39
9.4.2 シーンをチェーン化する.....	39
9.4.3 シーンのキュー	39
9.4.4 シーンを削除する.....	40
9.5 パターン設定	40
9.5.1 パターンの同期レート.....	40
9.5.2 パターン再生の進行方向.....	41
9.5.3 パターンの開始点と終了点	42
9.6 ベロシティ.....	42
9.6.1 ステップのベロシティ編集.....	42
9.6.2 リアルタイム録音でのベロシティ	43
9.7 プロバビリティー	43
9.7.1 ステップのプロバビリティーを編集する.....	43
9.7.2 プロバビリティーをAbleton Live上に保存する	44
9.8 ミューテーション	45
9.8.1 ステップのミューテーションを編集する.....	45
9.8.2 ミューテーションをAbleton Live上に保存する	45
9.9 マイクロステップ	46
9.9.1 マイクロステップを編集する	46
9.9.2 マイクロステップを削除する	46
9.9.3 マイクロステップを複製する	46
9.10 テンポとスウィング	47

9.10.1 テンポとスウィングを編集する	47
9.11 Ableton Live上のクリップに保存する (Print to Clip)	48
9.12 プロジェクト	49
9.12.1 シーケンサープロジェクトを保存する	49
9.12.2 プロジェクトのバックアップを行う	49
9.13 シーケンサー設定	50
9.13.1 シーケンサー設定を開く	50
9.13.2 トラックタイプ	50
9.13.3 ルート選択/スケールビューワー	50
9.13.4 スケール選択	51
9.13.5 MIDIチャンネル設定	51
10. セットアップ	52
10.1 セットアップメニュー	52
10.2 LED設定	52
10.3 ベロシティ設定	53
10.4 アフタータッチ設定	54
10.5 MIDI設定	55
10.6 フェーダー設定	56
10.7 Liveおよびプログラマーモード	57
10.8 ブートローダーメニュー	58
A. 付録	59
A.1 デフォルトMIDIマッピング	59
A.1.1 Custom 1	59
A.1.2 Custom 2	60
A.1.3 Custom 3	60
A.1.4 Custom 4	61
A.1.5 Custom 5	61
A.1.6 Custom 6	62
A.1.7 Custom 7	62
A.1.8 Custom 8	63
A.1.9 プログラマーモード	63
A.2 オーバーラップのレイアウト	64
A.2.1 オーバーラップ - 5本指	64
A.2.2 オーバーラップ - 4本指	65
A.2.3 シーケンシャル	66

1. はじめに

Launchpad Proは、Ableton Liveとお使いのハードウェアの両方で音楽制作ができる、最も強力なグリッドコントローラです。楽曲の制作や演奏に必要なすべてを行えます。

Launchpad Proはスタジオの中心的存在として活躍します。パワフルな32ステップのシーケンサーを使ってハードウェアやソフトウェアでトラックを作成したり、プロバビリティー／ミュートーション機能を使って変化する複雑なシーケンスを組んだりできます。カスタムモードを使えばスタジオ全体の制御を行えるほか、2つのMIDI出力を使ってハードウェアにMIDIを送ることも可能です。

Launchpad Proがあれば、表現力豊かなビートを得ることも、複雑なメロディーを演奏することも、64のベロシティ／プレッシャーセンシティブなパッドでAbleton Liveのクリップを再生することもできます。また、コントロール部はRGBバックライトが搭載されているため、再生するクリップや演奏しているノート、シーケンスを行なっているステップが一目でわかります。

Launchpad Proは完全にスタンドアロンで使用でき、コンピュータが無くても操作を行えます。本体のUSB-Cポートを付属の電源アダプターに繋ぎ、それをコンセントに挿して使用します。

本マニュアルでは、Launchpad Proの各機能について解説し、音楽制作やパフォーマンスをネクストレベルに導く方法についてご案内します。

1.1 Launchpad Proの主な機能

- Novation史上最高のAbleton Liveとの統合性：マウスを触らずにトラックの演奏、録音、制作まで全てを行えます。
- 64の超高感度RGBパッド：大型のベロシティ／プレッシャーセンシティブパッドで表現力豊かに演奏できます。
- パワフルな4トラックシーケンサー：32ステップのパターン／シーンを使ってアレンジを行えるほか、プロバビリティーおよびミュートーションコントロールでトラックに変化を与えられます。
- コードモード：複雑なコードを直接グリッドから簡単に検索／構築／保存／演奏でき、素早く新しいハーモニーを見つけられます。
- ダイナミックノートおよびスケールモード：完璧に調和したベースライン、メロディ、コード、リードを簡単に演奏できます。Launchpad Proはドラムのタイミングも認識し、グリッドにドラムラックを表示します。
- MIDI In、Out 1、Out 2/Thru：Launchpad Proからスタジオ内のあらゆるMIDI機器を直接コントロールできます。
- 8つのカスタムモード：Novation Componentsを使用して、自身のパフォーマンスに合わせた独自のMIDIマッピングをカスタマイズできます。

1.2 同梱物

- Launchpad Pro
- USB- C to USB-Aケーブル
- USB- C to USB-Cケーブル
- USB-A電源アダプター
- 3x TRSミニジャック to DIN MIDIアダプター

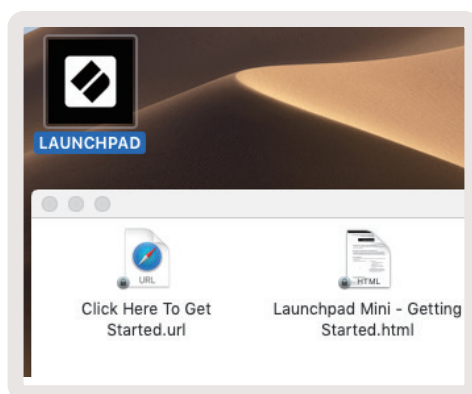
2. 使用準備

ビートメイク初心者の方にも、経験豊富な方にとっても、Launchpad Proの使用準備は非常に簡単に行えます。NovationのEasy Start Toolでは、セットアップ方法に関するステップごとのガイドを提供するため、音楽制作を行なったことがない方も、付属ソフトウェアのみをダウンロードしたい方も、必要な部分だけを参照することができます。

Easy Start Toolにアクセスするには、まずLaunchpad Proをコンピュータに接続する必要があります。

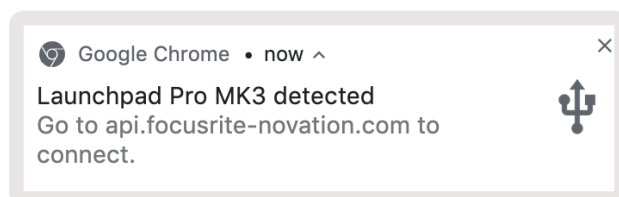
2.1.1 Macを使用する場合

1. デスクトップ上の「LAUNCHPAD」フォルダを開きます。
2. フォルダ内のリンク「Click Here to Get Started.html」をクリックします。
3. Easy Start Toolが開かれ、セットアップを行えます。



2.1.1.A – Launchpad Proを接続し、デスクトップでLAUNCHPADフォルダを見つけます。

コンピュータ上でGoogle Chromeを開いている場合、Launchpad Proを接続するとポップアップが表示され、Easy Start Toolに直接移動します。

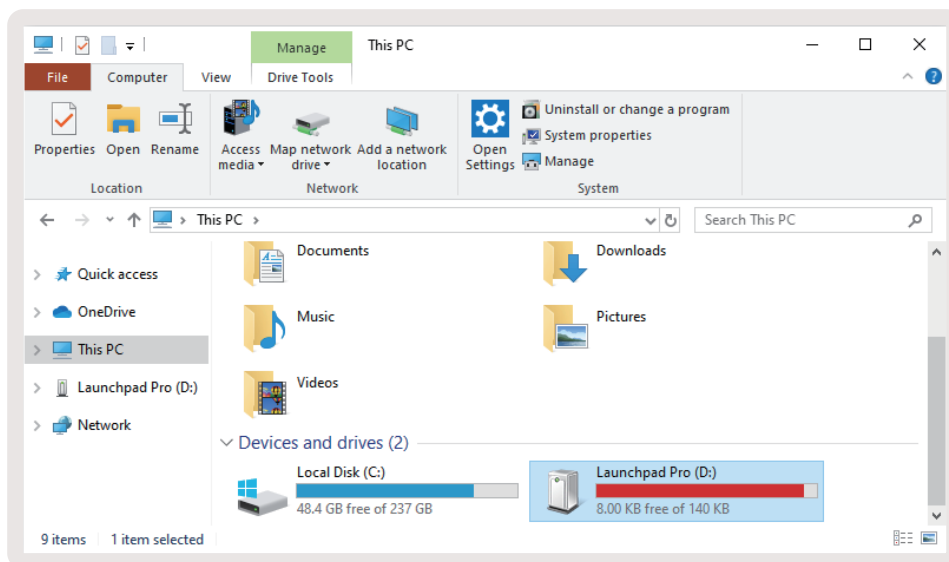


2.1.1.B – Launchpad Proを接続するとEasy Start Toolのポップアップが表示されます。

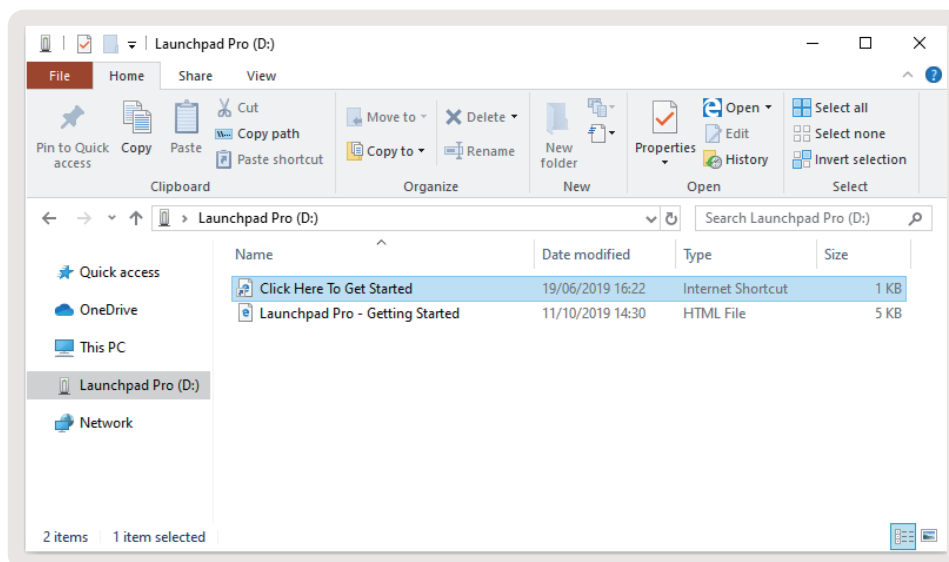
2.1.2 Windowsを使用する場合

1. Startボタンを押し、「This PC」と入力したら、Enterキーを押します。
2. This PC内で、「Launchpad Pro」ドライブをダブルクリックします。

ドライブ内でリンク「Click Here to Get Started.html」をクリックします。4. Easy Start Toolに移動し、セットアップを行います。



2.1.2.A – Launchpad Proドライブを開いてコンテンツを確認します。



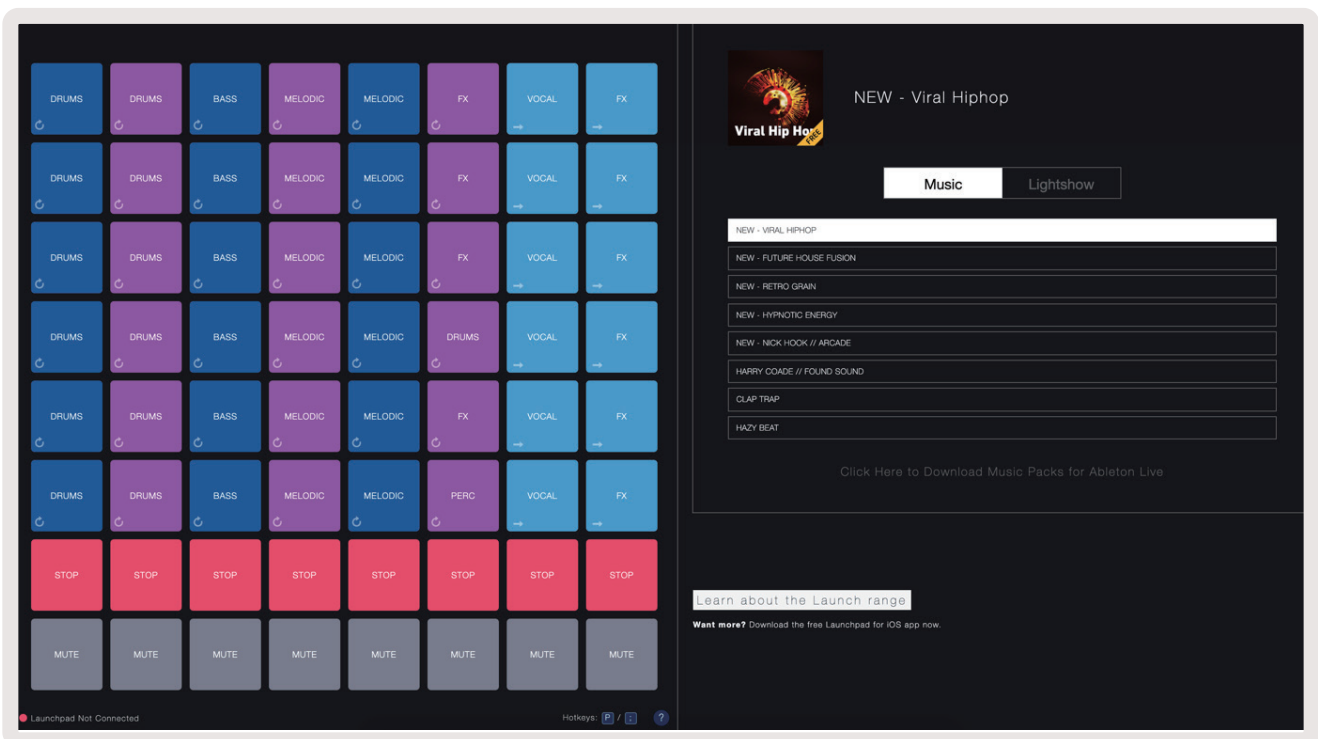
2.1.2.B – 「Click Here To Get Started」をクリックすると、East Start Toolに直接移動します。

2.2 Launchpad Intro

Launchpadを触ったことがない方は、このLaunchpad Introをはじめに確認すると良いでしょう。Ampify Musicの厳選された様々なパックの中から好きなものを選択すれば、すぐに演奏を行えます。お使いのLaunchpad Proが画面上のグリッドと対応し、パッドを押すことでループやワンショットを再生してトラックを構築できます。

Launchpad Introに移動するには、Launchpad Proをコンピュータに接続し、intro.novationmusic.com/にアクセスします。すると、接続されているLaunchpad Proが自動的に検出され、パックを使ってすぐに演奏を行えます。

注意：Launchpad Introにアクセスするには、WebMIDI対応のブラウザを使用する必要があります。Google ChromeまたはOperaの使用を推奨します。



2.2.A – Launchpad Intro

2.3 Ableton Live

Ableton Live (Liveとも呼ばれます) は、音楽制作のためのユニークかつパワフルなソフトウェアです。Launchpad ProにはAbleton Live 10 Liteが付属し、自分の音楽を作り始めるのに必要な全てのツールが含まれています。Launchpad Proのセッションモードは、Ableton Liveのセッションビューを操作するために設計されています。

Ableton Liveを使用したことが無い方は、Easy Start Tool (2. 使用準備を参照) にアクセスすることを推奨します。Easy Start Toolでは、Launchpad Proの製品登録や付属のAbleton Live 10のインストール方法を確認できるほか、Ableton Liveの主な機能やLaunchpad Proを使って音楽制作を始める方法に関する解説ビデオを視聴できます。

Liveを開くと、Launchpad Proが自動的に検出され、セッションモードに切り替わります。

Ableton Liveの詳細な機能に関しては、Abletonウェブサイトをご確認ください：

www.ableton.com/ja/live/learn-live/

Launchpad Proを製品登録することで、こちらからAbleton Live 10 Liteのライセンスを入手できます：

customer.novationmusic.com/register

2.4 その他のソフトウェアと使用する

Ableton Live以外の音楽制作ソフトウェアをお使いの場合は、support.novationmusic.comでLaunchpad Proのセットアップ方法を確認できます。使用するソフトウェアによって、Sessionモード、Noteモードで表示される情報が異なるためご注意ください。

2.5 スタンドアロンで使用する

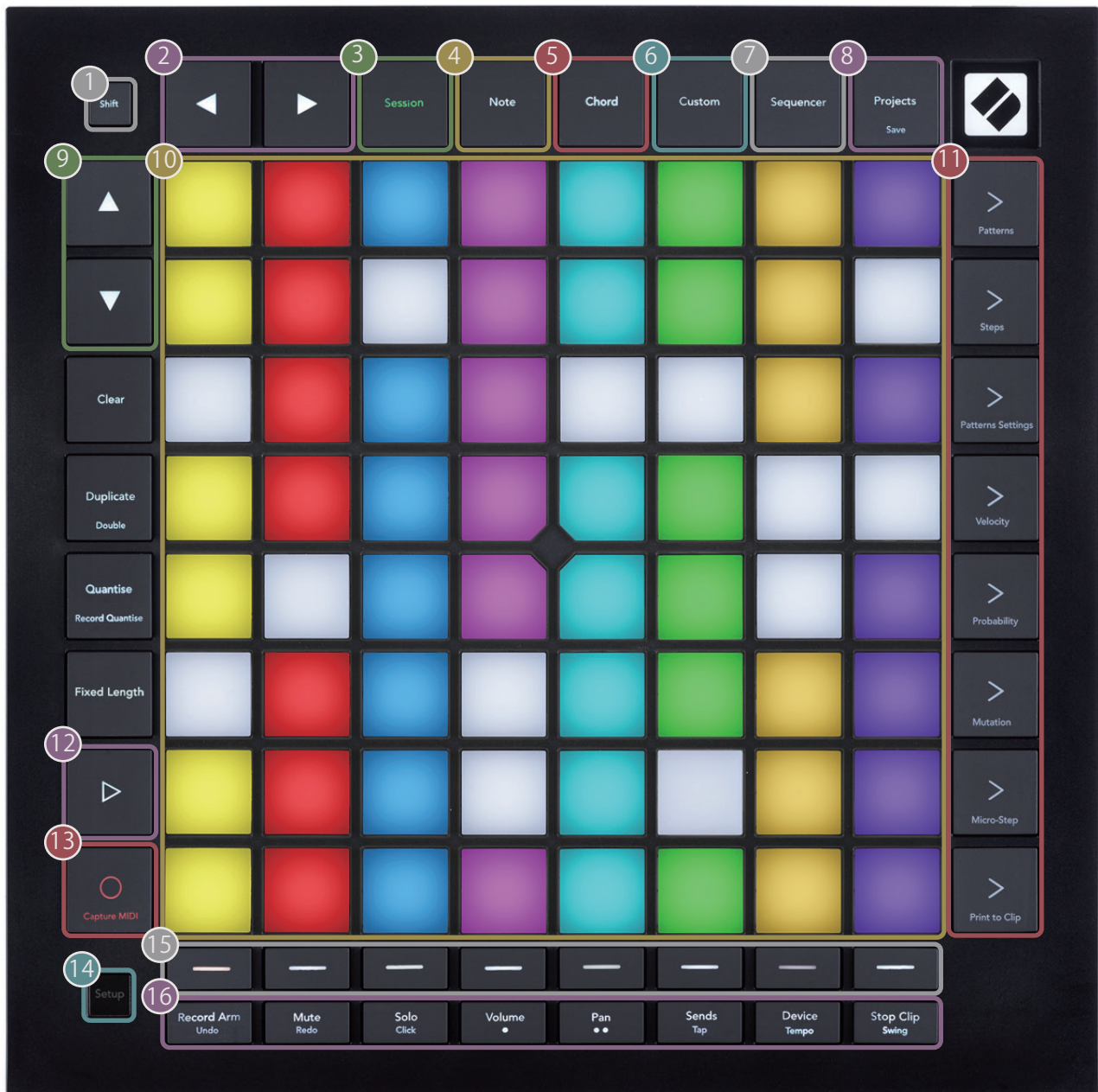
Launchpad Proをスタンドアロンで使用する場合、付属のUSB-A to USB-Cケーブルと一緒に、電源アダプタをコンセントに挿してください。付属のTRSミニジャック to DIN MIDIアダプターをMIDIケーブルと一緒に使うことで、外部のハードウェアに接続できます。シーケンサー、カスタムモード、ノートモード、コードモード、プログラマーモードは全てMIDI Outポートを介してMIDIデータを送信します。

2.6 お困りの場合

セットアップでお困りの場合、Novationサポートチームにお問い合わせください。Novationヘルプセンター (support.novationmusic.com) では、よくある質問に対する回答など多くの情報を確認できます。

3. 各部の名称と特徴

- 1 Shift機能へのアクセス
- 2 ナビゲーションボタン
- 3 セッション
- 4 ノートモード
- 5 コードモード
- 6 カスタムモード
- 7 スタンドアロンシーケンサー
- 8 シーケンサープロジェクト
- 9 ナビゲーションボタン
- 10 8x8 パッドグリッド
- 11 シーンローンチ & シーケンサーボタン
- 12 再生
- 13 録音 & キャプチャMIDI
- 14 セットアップ
- 15 トラック選択ボタン
- 16 Abletonトラックコントロール



- 17 USB-Cソケット
- 18 MIDI In、Out 1、Out2/Thru (標準TRSミニジャック)

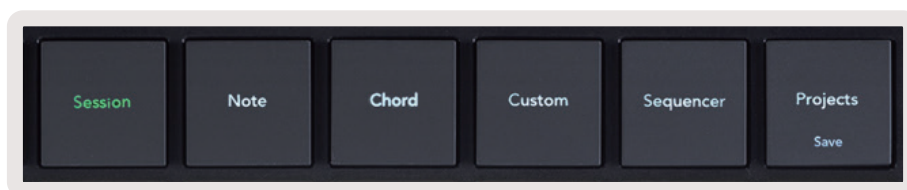


4. Launchpad Proインターフェース

4.1 モード

各モードはLaunchpad Proのインターフェースの中核を担います。モードによって各ビュー間の切り替えや、それぞれ異なる機能を利用できます。

次の5種類のモードが備わっています:セッション／ノート／コード／カスタム／シーケンサー



4.1.A – Launchpad Proのモードボタン

モードボタン(上図)を押して各モードに切り替えます。現在選択されているモードが緑色に点灯し、使用できるモードが白く点灯します。

さらに、[Projects]ボタンでは保存したシーケンサープロジェクトにアクセスできます。[Projects]ページは[Sequencer]のサブモードとして扱われます。

Launchpad Proでは8つのカスタムモードを使用できます。カスタムモードでは、MIDIを介してハードウェアとソフトウェアをコントロールできます(8. [カスタムモード](#)を参照)。[\[Custom\]](#)ボタンを押すと、最後に使用したカスタムモードに切り替わります(デフォルトではカスタムモード1)。次にトラック選択ボタンを押して8つのカスタムモードから選択します。選択されたカスタムモードが緑に点灯し、使用できるその他のカスタムモードが淡く白色に点灯します。Novation Componentsを使えば、これら8つのモードを編集し、用途に合わせて独自のカスタマイズを行えます([カスタムモード](#)を参照)。

4.2 Shift

Launchpad Pro Mk3では、Shiftボタンを使って各ボタンの二次機能を利用できます。下図のように、Shiftを使った二次機能は各ボタンの下部に小さく表記されています。この場合、[Save]機能が[Projects]ボタンの二次機能となっています。



4.2.A – [Projects]ボタンの二次機能として[Save]機能を利用できる

[Shift]ボタンを長押しすると、利用できる機能が薄いオレンジに点灯し、利用できないものは点灯しません。[Record Quantise]、[Continue]、[Click]のようにShiftによってアクセスできるトグル機能は、無効の場合赤く、有効の場合には緑に点灯します。

利用できる機能はモードによって異なります。例えば、[Save]ボタンはシーケンサーモードの場合にのみ利用できます。

5. セッションモード

5.1 Ableton Liveのセッションビュー

セッションモードは、Ableton Liveのセッションビュー(下図)をコントロールするために設計されています。

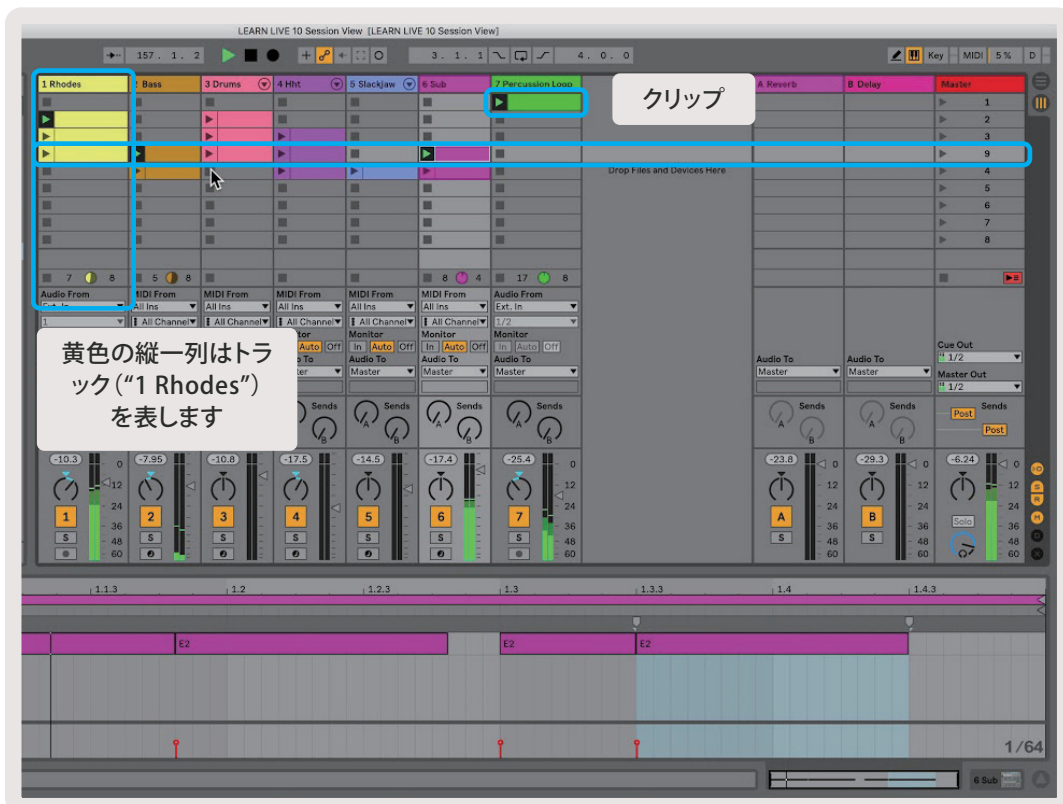
Ableton Liveを使用したことが無い場合には、まず[Easy Start Tool \(ページ5を参照\)](#)にアクセスすると良いでしょう。ここでは、付属のAbleton Live Lite 10のダウンロードコードの入手や、インストール方法に関する解説ビデオ、Ableton Liveの基本機能、Launchpad ProとAbleton Liveを使用した音楽制作の始め方などを紹介しています。

セッションビューは、クリップ、トラック(縦の列)、シーン(横の列)によって構成されるグリッドです。セッションモードでは、このセッションビュー上の8x8のクリップがLaunchpad Proに示されます。

クリップとは、基本的にMIDIノートやオーディオ音源を含むループを示します。

トラックはバーチャルインストゥルメントやオーディオトラックを示し、インストゥルメント・トラックに配置されたMIDIクリップはそのトラックにアサインされているインストゥルメントを演奏します。

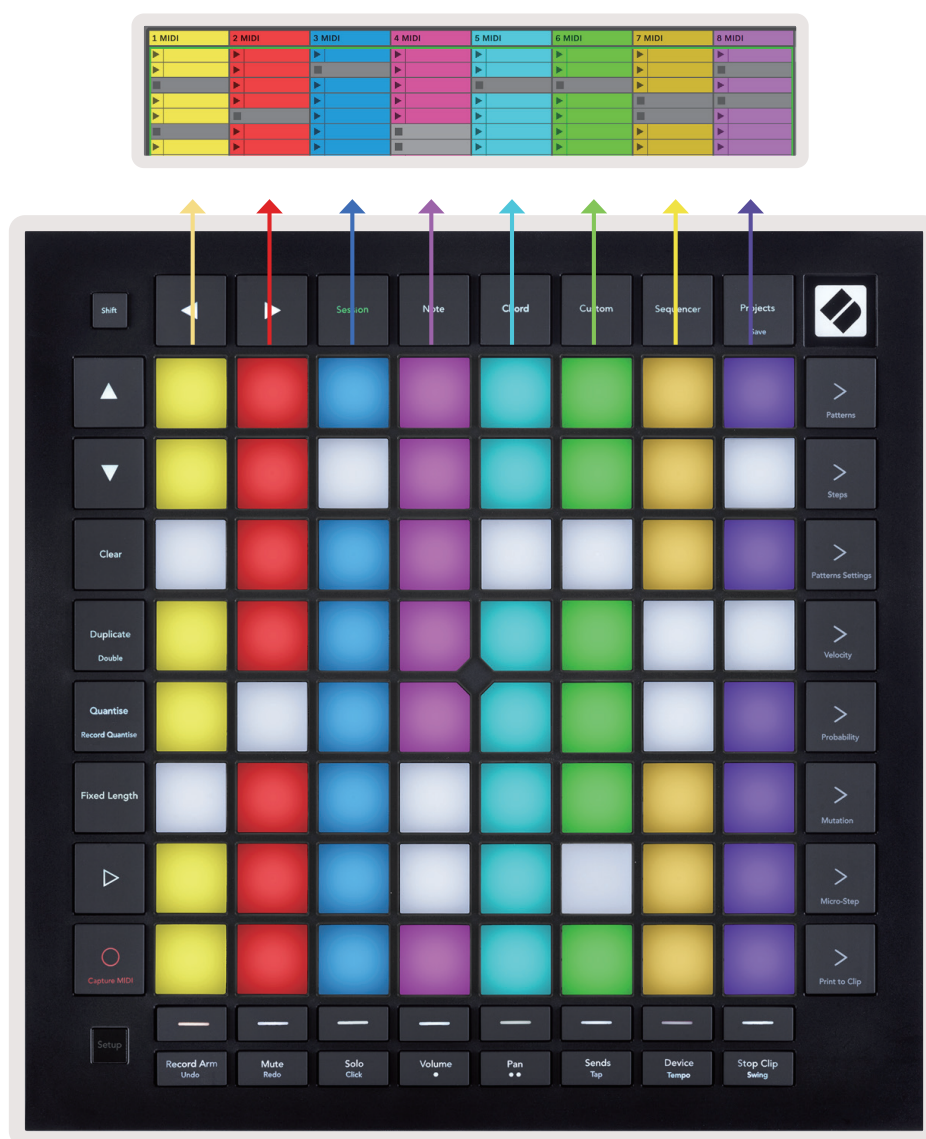
シーンはクリップの横一行を示します。シーンをローンチ(再生)すると、その列に含まれている全てのクリップが再生されます。つまり、横一行(各トラックをまたいで)にクリップを配置することでグループを形成し、シーンを上から順に再生していくことで一つの曲を構成していきます。



横の列はシーンを表します(ここではシーン9が選択されています)

▲▼◀▶ボタンでは、セッションビュー内を移動できます。Ableton Liveのセッションビュー上に表示される枠線は、現在Launchpad Pro上で示されている範囲を表します。

- パッドを押すことで、Ableton内の対応するクリップが再生されます。パッドの色とAbleton画面上のクリップの色は一致します。
- パッドを押すと緑色に点滅し、クリップの再生準備が行われたことを示します。再生中のクリップに対応するパッドは緑色に点滅します。
- 1つのトラック上で同時に再生できるのは1つのクリップのみになります。空のクリップを押すとそのトラック上で現在再生されているクリップが停止します。
- クリップの横一列のことをシーンと呼びます。Launchpad Pro右側にある > (シーンローンチ) ボタンを押すことでシーンを一度に再生できます。



5.1.B – Ableton Live内のセッションビューと対応するLaunchpad Pro

トラックが録音アーム（録音準備完了）されている場合、セッション録音ボタン[O] を使って現在再生されているクリップのオーバーダブ録音（重ね録り）を行えます。



5.1.C – セッション録音ボタンは二次機能としてキャプチャMIDIも備えている

[Shift] ボタンを押しながらセッション録音ボタンを押すと、Ableton LiveのキャプチャMIDI機能を利用できます。Live 10では、録音アームされたトラックまたは入力モニターされているトラックのMIDI入力が常に検出されているため、それらのトラック上で演奏したMIDIノートを手元から復元することが可能です。録音アームされているトラック上でいかなるクリップも再生されていない場合、Ableton LiveがそのMIDIノートを新しいクリップに配置します。クリップが再生されている場合、MIDIノートがそのクリップ上にオーバーダブされます。

再生ボタンを押すことで停止中の現在有効なクリップが再生され、再生中に再生ボタンを押すと再生が停止されます。

5.2 セッションオーバービュー

セッションモード中に[Session]ボタンを押すことで、セッションオーバービューにアクセスできます。これによりセッションビューのグリッドが縮小表示に切り替わり、1つのパッドが8x8のクリップの1ブロックを示します。パッドを押すことで対応する8x8のブロックが全体表示されるため、大きなLiveセットを扱う場合に便利です。ナビゲーションボタンを押すことでセッションオーバービューを移動できます。

現在操作されている8x8のブロックは明るい薄茶に点灯し、その他のブロックは青く点灯します。現在操作されていないブロック内でクリップが再生されている場合、そのブロックが緑色に点滅します。

5.3 クリップの機能

クリップの再生／停止以外にも、Launchpad ProではAbleton Liveでの音楽制作に便利な様々なクリップの機能を利用できます。

5.3.1 一つのクリップまたは空のクリップスロットを選択する

再生させずにクリップを選択したい場合、[Shift]を押したままそのクリップを押します。これは、空のクリップスロットに対しても有効です。選択すると、Live内でもそのクリップとトラックが選択され、クリップの内容が表示されます。シーケンサーからLive上にクリップを転送する場所を指定したい場合に便利です。

5.3.2 クリップを削除する

[Duplicate]を押したまま8x8のグリッド上のクリップを押すと、セッションビューからそのクリップが削除されます。

ノートモードの場合、[Clear]を押すことで現在選択されているクリップが削除されます。

5.3.3 クリップを複製する

[Duplicate]を押したまま8x8のグリッド上のクリップを押すと、そのクリップがすぐ下のスロットに複製されます。これにより既存のクリップは上書きされます。

ノートモードの場合、[Duplicate]を押すことで現在選択されているクリップが複製され、複製して新しくできたクリップが選択されます。既存のクリップを元に新しいバリエーションを作りたい場合に便利です。

5.3.4 クリップの長さを2倍にする

クリップの長さを2倍にしたい場合、[Double]を使用します。これを行うことで、2小節のクリップが4小節のクリップになります。

- ・ セッションモードでは、[Shift]および[Duplicate]を押したままパッドを押すと、そのクリップの長さが2倍になります。
- ・ ノートモードまたはデバイスモードで、すでにクリップが選択され再生されている場合、[Shift]を押しながら[Duplicate]を押すことでそのクリップの長さが2倍になります。

ノートモードの場合、[Double]を押すことで現在選択されているクリップの長さが2倍になります。ループのバリエーションを作ってオーバーダブを行いたい場合に便利です。

5.3.5 クリップをクオンタイズする

[Quantise]を押したまま8x8のグリッド上のクリップを押すと、そのクリップ内のコンテンツがクオンタイズされます。これによりクリップ内のMIDIノートが一番近い16分音符にスナップされます。

5.3.6 クオンタイズ録音

[Record Quantise]が有効な場合、録音される全てのMIDIが自動的に現在のクオンタイズ設定でクオンタイズされます。

[Shift]を長押しすると[Record Quantise]が利用できるかどうか確認できます。[Quantise]ボタンが赤く点灯する場合、クオンタイズ録音が無効です。緑色に点灯する場合、クオンタイズ録音が有効です。[Shift]を押したまま[Quantise]を押すことでクオンタイズ録音のオンオフを切り替えられます。

Live内でクオンタイズ設定を変更したい場合、画面上部の[編集] > [録音クオンタイゼーション]で設定できます。

5.3.7 クリップの長さを固定する (Fixed Length)

[Fixed Length]では、録音される新しいクリップの長さを設定できます。[Fixed Length]を押してオンオフを切り替えられます。オフの場合[Fixed Length]ボタンが白く点灯し、オンの場合には青く点灯します。

Fixed Lengthがオンの場合に録音される小節数は変更可能です。[Fixed Length]を短く押すとトラック選択ボタンが青く点滅し始め、各トラック選択ボタンが1小節を表すので、1-8小節の中から任意の物を選択します。これにより、設定された小節数の分録音が行われると自動的に録音が停止され、録音されたクリップがループ再生を始めます。

左の図ではクリップの長さが1小節に、右の図では4小節に設定されています。



5.3.7.A – トラック選択ボタンでクリップの小節数を設定可能 (左の図では1小節／右の図では4小節が選択されている)

5.4 トラックコントロール

Launchpad Proのトラックコントロール機能では、Ableton Live 10上の様々なトラックパラメータを制御できます。トラックコントロールはトラック選択ボタンの下の列を使って行います。



5.4.A – Launchpad Proのトラック選択ボタン & トラックコントロール

トラックコントロールはLaunchpad Pro下部のボタン列のうち下の段に配置されており、すぐ上の8つのトラック選択ボタンと一緒に使用します。

5.4.1 Record Arm

トラック選択ボタンと一緒に使用して録音アームを行います。ボタンを押すとそのトラックが録音アームされ、トラック内のクリップを録音できます。

5.4.2 Mute

トラック選択ボタンと一緒に使用してミュートします。ボタンを押すとそのトラックがミュートされます。

5.4.3 Solo

トラック選択ボタンと一緒に使用してソロにします。ボタンを押すとそのトラックのみ音声流れます（それ以外のトラックがミュートされます）。

5.4.4 Volume

セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックの音量レベルを制御します。ボリュームフェーダーは縦の列で示されます。

5.4.5 Pan

セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックのステレオパンニングを制御します。パンは横の列で示され、一番上のパンは一番左のトラックを示し、一番下のパンは一番右のトラックを示します。

5.4.6 Send

セッションビュー内で現在選択されている8x8のエリア内のトラックからSend Aに送られるセンドレベルを制御します。センドフェーダーは縦の列で示されます。

5.4.7 Device

ミキサー機能上のトラック選択ボタンと一緒に使用して、そのトラック内のデバイスの1～8つのパラメータを操作します。チェーン内のデバイスが選択されると、現在セッションビューで選択されている8x8エリア内で8つのマクロパラメータの値を操作できます。マクロパラメータを操作するフェーダーは縦の列で示されます。

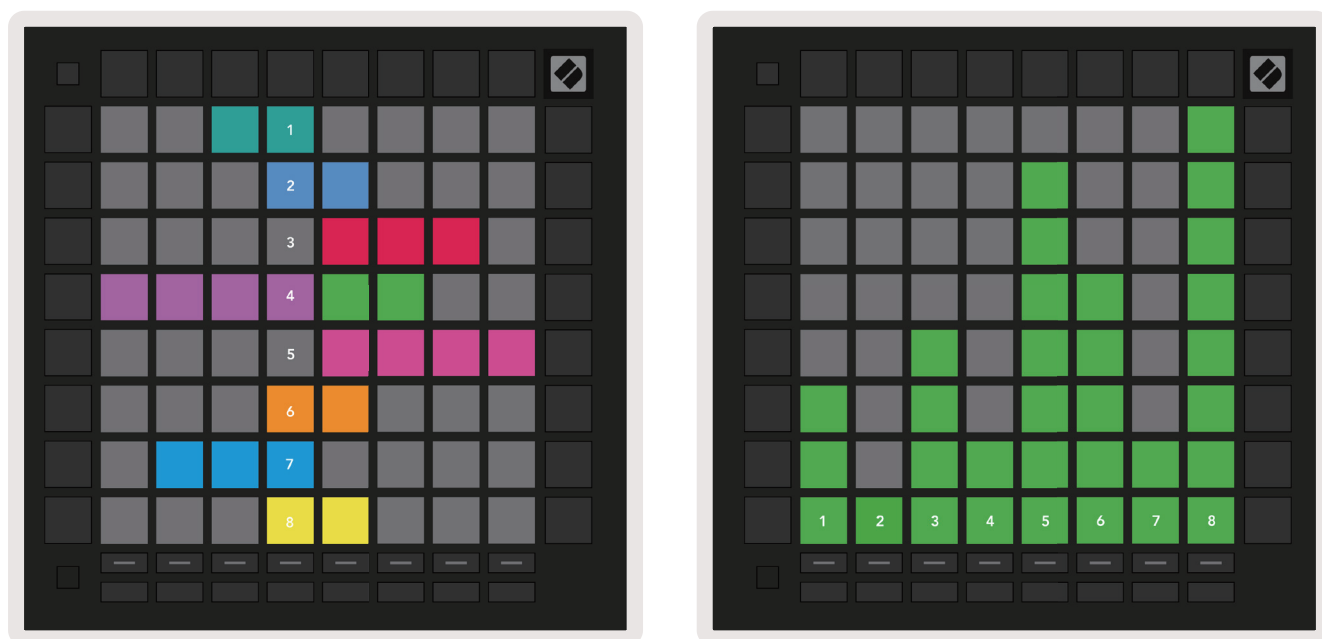
5.4.8 Stop Clip

トラックボタンと一緒に使用してクリップの再生を停止します。ボタンを押すとそのトラック内のクリップの再生がフレーズの終点で停止されます。

5.4.9 フェーダーの仕組み

[Volume]、[Pan]、[Sends]、[Device]はそれぞれ8本のフェーダーで構成されます。Volume、Sends、Deviceではフェーダーが縦方向に並び、Panでは横方向に並びます（下図参照）。パッドを押すことでフェーダー位置を上下（または左右）に動かします。

ボリュームおよびセンドのフェーダーでは、トラックが横方向に配置され、パンのフェーダーではトラックが縦方向に配置されます。



5.4.9.A - トラックパンのフェーダー（左）／ボリュームフェーダー（右）

5.5 録音アーム & 録音

トラックが録音アームされると、その縦一列内の全ての空のクリップが暗い赤に点灯します。クリップを押すと赤く点滅し、録音が始まることを示します（録音ボタンも一緒に点滅します）。さらに録音ボタンを押すと、クリップが再度赤く点滅し、録音が停止されることを示します。録音中にトラックの録音アームが解除されると、そのクリップの録音がただちに停止されます。

5.6 ショートカット機能

Launchpad Proには、Ableton Liveでの音楽制作を効率よく行うためのショートカットがいくつか用意されています。

5.6.1 Undo

[Shift]を押したまま[Record Arm]を押すと直前の操作が取り消されます。再度押すとその前の操作がさらに取り消されます。

5.6.2 Redo

[Shift]を押したまま[Mute]を押すと直前のアンドゥの操作がやり直されます。

5.6.3 Tap (タップテンポ)

[Shift]を押したまま[Sends]を繰り返し押すことで、好きなテンポに設定できます。

5.6.4 Click (メトロノーム)

[Shift]を押したまま[Solo]を押すことで、Ableton Liveのクリック(メトロノーム)機能のオンオフを切り替えられます。

5.7 モーメンタリ(一時的な)ビュー切り替え

セッションモード内のビューはモーメンタリ切り替えを行えるため、ライブパフォーマンスに最適です。

例えば、トラックのミュートを制御しながら一時的にボリュームフェーダーにアクセスしてトラックの音量をあげたい場合、[Volume]を押さえながらボリュームフェーダーを操作し、[Volume]から指を離すとそのままミュートビューに戻ります。

6. ノートモード

6.1 概要

Launchpad Proのノートモードでは、ベロシティ／プレッシャーセンシティブの8x8グリッドを使ってドラムやメロディーを表現力豊かに演奏できます。

ノートモードのレイアウトは、クロマチック、スケール、ドラムレイアウトから選択でき、Launchpad Proの演奏パッドをカスタマイズできます。

どのレイアウト内でも▲▼ボタンを使ってオクターブを上下できるほか、◀▶を使って半音ごとにグリッドをトランスポートできます。

ノートモードのレイアウトは、Ableton Live内で録音アームされているインストゥルメントによって自動的に切り替わります。ドラムラックを含むトラックがLive内で録音アームされている場合、ノートモードがドラムレイアウトに切り替わり、その他のインストゥルメントの場合には切り替わりません。

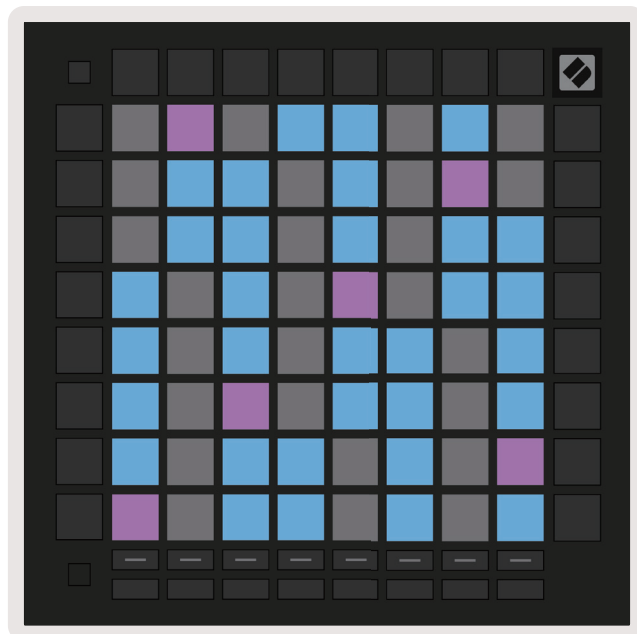
Ableton Live内でブラウザーからインストゥルメント選んでダブルクリック（またはトラックにドラッグアンドドロップ）し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します。



6.1.A - Ableton Live内のトラックが正しく設定されていることを確認

6.2 クロマチックモード

クロマチックモードはノートモードのデフォルトとなっており、8x8グリッド上のパッドを押して、ノートをトリガーします。クロマチックモードでは全てのノートを演奏できますが、スケール内のノートが視認できるようになっています。



6.2.A – クロマチックモードのノートモードで5本指のオーバーラップが選択されている

青いパッドは現在選択されているスケール内のノートを（デフォルトではCマイナー）、ピンクのパッドはそのスケールのルート音を、点灯していないパッドはスケール外のノートを表します。

ここで示されているデフォルトのクロマチックレイアウトはギターの運指と似ており、2パッド上かつ2パッド分右のパッドが1オクターブ上のパッドとなります。そのため、ギターのコード演奏の指の形を利用することができます。さらに6つ目のパッドは、上の列の1つ目のパッドと同じノートを押すことになり、さらにギターのレイアウトに基づいた配置となっています。

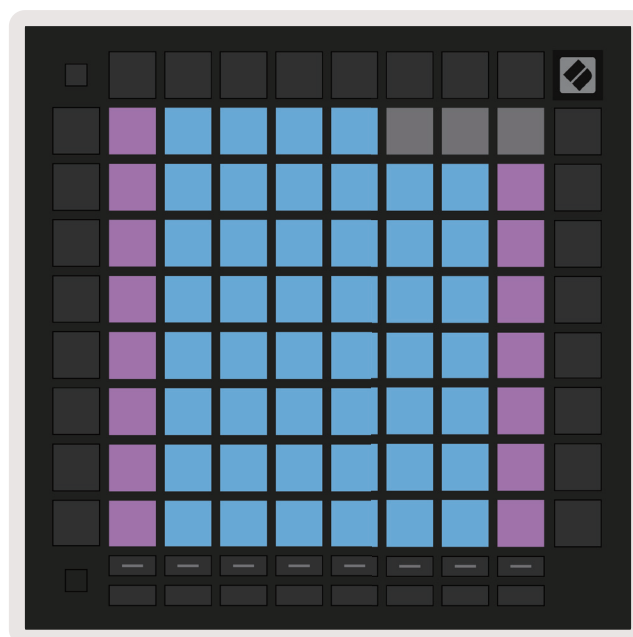
クロマチックモードのレイアウトはノートモード設定で行えます。ノートモード設定は、[Shift]を押したまま[Note]を押してアクセスできます。[詳細は6.4 ノートモード設定](#)を参照してください。

6.3 スケールモード

スケールモードでは現在指定されているスケール内のノートのみが表示されます。これにより、キーから外れる心配をせずに自由な演奏を行えます。

クロマチックモードでは青いパッドが現在指定されているスケール内のノートを示す一方、ピンクのパッドがそのスケールのルート音を示していましたが、スケールモードでは、その位置で演奏できるスケール内のノートが存在しない場合、空のパッドで示されます。これはクロマチックモードでも同じことが言えます。

クロマチックモードのレイアウトはノートモード設定で行えます。ノートモード設定は、[Shift]を押さえながら[Note]を押すことでアクセスできます。[詳細は6.4 ノートモード設定](#)を参照してください。

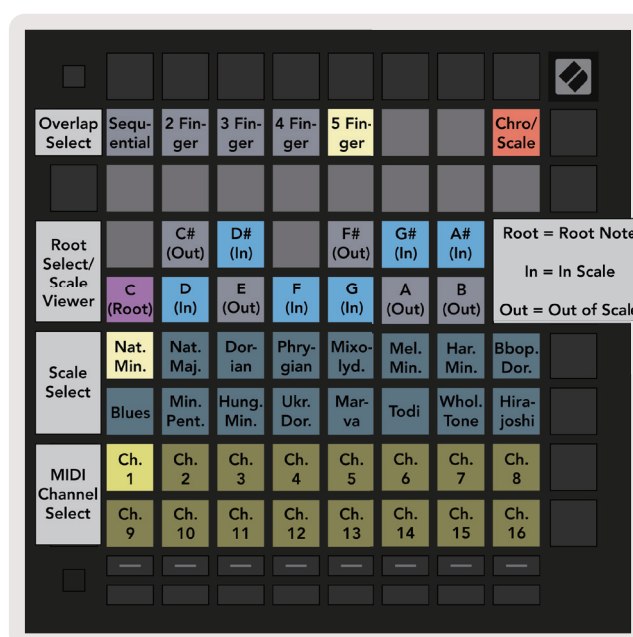


6.3.A – スケールモードのノートモードでシーケンシャルのオーバーラップが選択されている

6.4 ノートモード設定

ノートモード設定では、クロマチックモード／スケールモードの切り替えや、現在選択されているスケールやルート音の変更、ノートモードのレイアウト（オーバーラップコントロールを含む）変更、ノートモードのMIDIチャンネル変更を行えます。

ノートモード設定へはShiftを押したままNoteまたはChordを押します。ノートモード設定内では[Note]および[Chord]ボタンが緑色に点滅します。ここで行われる設定はノートおよびコードモードで共有されるため、同じスケール、ルート音、MIDIチャンネルに設定されます。



6.4.A – ノートモード設定

Chro/Scaleでは、クロマチックモード（淡い赤に点灯）およびスケールモード（エメラルドグリーンに点灯）の切り替えを行います。

Overlap Selectでは、クロマチック／スケール両モードのレイアウトを変更します。詳細は[6.5 Overlap](#) で解説しています。

Scale Viewerではどのノートが現在選択されているスケール内に含まれているか、ピアノ鍵盤のレイアウトで示されます。青いパッドはスケール内のノートを、ピンクのパッドはそのルート音を、暗く白に点灯しているパッドはスケール外のノートを示します。スケールビューワー内のパッドを押すとそのスケールのルート音を変更できます。

Scale Select では、パッドを押して16種類のスケールから選択できます。選択されたスケールは明るい白に点灯し、選択されていないスケールは淡い青に点灯します。

以下のスケールから選択できます：

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| • ナチュラルマイナー | • ハーモニックマイナー | • マルヴァ |
| • ナチュラルメジャー | • ビバップドリアン | • トディ |
| • ドリアン | • ブルース | • ホールトーン |
| • フリジアン | • マイナーペンタトニック | • 平調子 |
| • ミクソリディアン | • ハンガリアンマイナー | |
| • メロディックマイナー | • ウクライニアンドリアン | |

MIDI Channel Selectでは、ノートモードがMIDIを伝送するMIDIチャンネルを1-16から設定します。複数のトラックが録音アームされている状態で、特定のトラックにノートを伝送したい場合に便利です。

6.5 オーバーラップ

オーバーラップでは異なる列上のノート間の関係性を定義します。例えばオーバーラップが5の場合、横列の一番左のパッドがその下の列の6番目のパッドと同じノートとなります（[A.2.1 オーバーラップ - 5本指](#)を参照）。

各オーバーラップの数字は、一つのスケールを演奏するのに何本の指が必要か示しています（シーケンシャルレイアウトを除く）。例えば、4本指のオーバーラップでは、上方向に進むひとつのスケールを4本の指だけで演奏できます（[A.2.2 オーバーラップ - 4本指](#)を参照）。

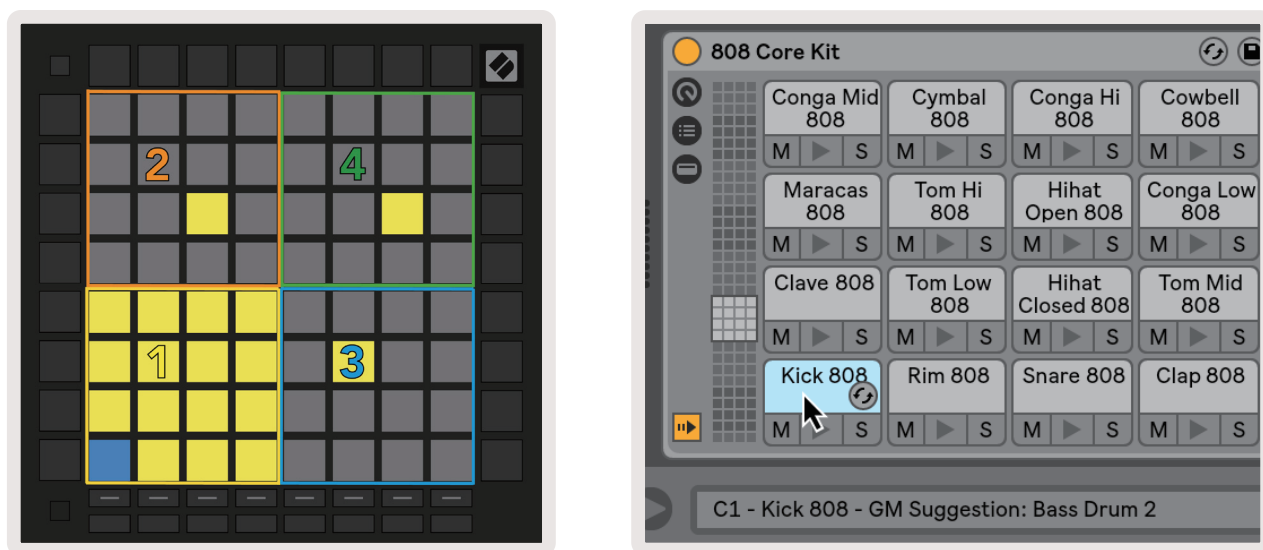
シーケンシャルオーバーラップでは、2-5本指のオーバーラップとは仕組みが異なります。クロマチックモードではノートが横方向に配置され、同じノートを含むパッドがありません。スケールモードでは、ルート音のオクターブのみが重複します。スケールモードでのシーケンシャルレイアウトは、Novation Circuitシリーズのレイアウトに似ており、広範囲にわたるオクターブを簡単に演奏することが可能です（[A.2.3 オーバーラップ - シーケンシャル](#)を参照）。

6.6 ドラムモード

現在録音アームされているトラックにAbleton Liveのドラムラックが読み込まれた場合、ノートモードが現在のドラムラックの状態を反映し、どのスロットにサンプルが含まれているか示されます。

Ableton Live内でブラウザーからドラムキットを選んでダブルクリック(またはトラックにドラッグアンドドロップ)し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します(5.5 録音アーム & 録音を参照)。

ドラムラックが読み込まれると、下図のように4x4のドラムラックのエリアがパッドに示されます。



6.6.A – Launchpad ProのドラムレイアウトとLive内のドラムラックが対応

4x4のグリッドの範囲内に表示させるドラムラックのエリアは、▲▼ボタンを使用することで16スロット分を一気に移動でき、◀▶ボタンを使用することで4スロット分を移動できます。本体左下部の4x4エリアに示されるドラムは、Ableton Live上で示されているものと常に対応します。

上図の2,3,4のエリア内にサンプルが読み込まれている場合、1のエリアと同じように黄色くパッドが点灯します。

ドラムパッドを押すと青く点灯して選択されていることを示し、そのパッドに含まれているサンプルをAbletonのドラムラックから編集できるようになります。

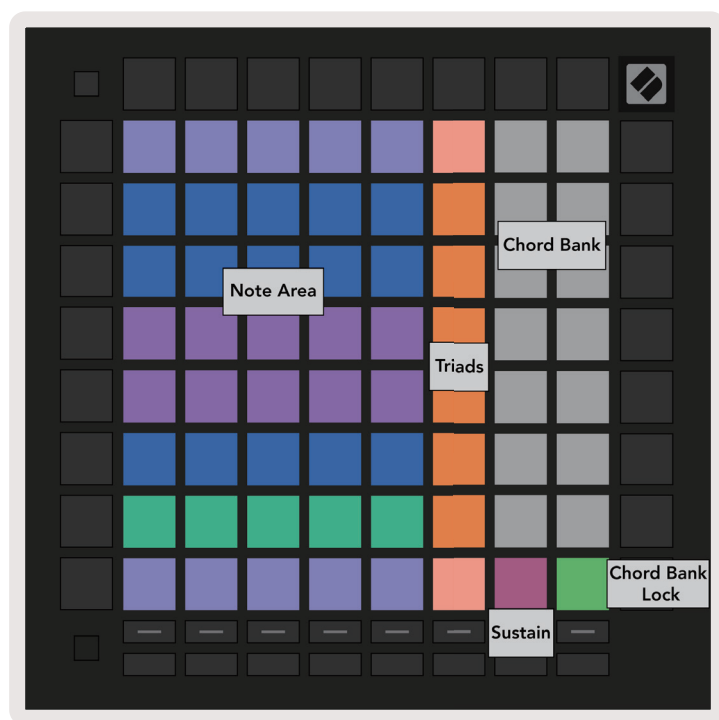
現在アームされているトラックにドラム以外のインストゥルメントが存在する場合、グリッドの表示形式がスケールモードまたはクロマチックモードに変わります。

Ableton Live内でブラウザーからインストゥルメントを選んでダブルクリック(またはトラックにドラッグアンドドロップ)し、MIDIトラックに読み込みます。パッドを演奏しても音が聞こえない場合には、トラックの録音アームが有効になっていることと、[Monitor]が[Auto]になっていることを確認します。

7. コードモード

7.1 概要

コードモードでは、複雑なコードを簡単に試して構築し、保存することができます。コードモードのレイアウトはどんなノートを演奏してもコードが成立するように設計されています。



7.1.A – コードモードレイアウト

7.2 トライアド(三和音)

コードモード上オレンジ色の縦一列はトライアド(三和音)を示します。いずれかのパッドを押すと、Cメジャーコードの場合にはC/E/Gといったように、三和音が同時に演奏されます。下から上に向けてルート音が高くなりますが、トライアドを構成するノートは現在操作しているスケールのオクターブ内のままとなります。これにより、コードがオクターブ内で自然な響きのボイスングを保ちます。

7.3 ノートエリア

上図のグリッド内左側の部分はノートエリアになっており、現在選択されているスケールを示します(ノートモード設定からスケールを選択でき、選択されたスケールはノートおよびコードモードで共通します)。一番左下のパッドから一番左上のパッドにかけてスケールが演奏されます(スケールが含むノートが6以下の場合、オクターブ上のパッドは6または7番目のパッドとなります)。

ノートエリア内の横に並んだパッドはコードを示します。横に隣り合ったノートを3つ演奏すれば、トライアドになります。良い具合のコードをより簡単に演奏したい場合、一番左のパッドを含めた同じ横一列上のパッドからのみ選んでコードを演奏すると良いでしょう。

各列の左端の3つのノートは3度のノートが1オクターブ上がる形で基本的な3和音を演奏します。左から4番目のノートは7度となりセブンスコードに、5番目のノートは1オクターブ上の5度のノートを演奏します。

7.4 コードの保存 & 呼び出し

作成したコードは、グリッド右側に14の白いパッドで構成されるコードバンクに保存できます。保存するには、バンク内の空のコードスロットを押したままノートエリアまたはトライアド内のノートを押します。または、ノートを先に押したままスロットを押すことでも可能です。

コードバンクに保存したコードを演奏したい場合、バンク内の該当のパッドを押します。保存されたコードを含むコードバンクスロットは明るい白に点灯し、空のスロットは暗い白に点灯します。

一番右下のChord Bank Lockでは、コードバンクにロックをかけることができます。ロックされている場合、バンクに保存せずにノートエリアでノートを演奏できつつ、バンク内のコードを演奏できます。この方法を利用すれば、保存したコードを指一本で演奏しながらメロディーを弾くことも可能です。

7.5 サステインコントロール

コードモードのSustainパッドでは、サステインペダルのように演奏したノートを伸ばしたままにすることができます。徐々にコードを発展させていくのに最適です。サステインがかかったノートを再度押すことで、新しいベロシティ値と共にリトリガーされます。

8. カスタムモード

8.1 概要

カスタムモードでは、Launchpad Proの8x8グリッドの高度なカスタマイズを行えます。

カスタムモードは全Novation製品のためのオンラインハブNovation Componentsを使用することで作成および編集することができ、作成したカスタムモードのバックアップも可能です。Componentsではいくつかのカスタムモードテンプレートも用意されており、ダウンロードが可能です。

Componentsへは、WebMIDI対応のブラウザ (Google ChromeまたはOpera推奨) を使用して <https://novationmusic.com/ja/node/127> にアクセスしてください。

また、NovationウェブサイトのアカウントページからComponentsのスタンドアロン版もダウンロードが可能です。

カスタムモードはLaunchpad Mini Mk3、Launchpad X、Launchpad Pro間で完全に対応します。

8.2 デフォルトカスタムモード

デフォルトでは、本体上で8つのカスタムモードが利用できます。

[Custom] ボタンを押してカスタムモードにアクセスするとトラック選択ボタンが白く点灯し、現在選択されているカスタムモードが薄い緑に点灯します。トラック選択ボタンを押してカスタムモードを選択します。

Custom 1では、CCが7-14に設定されている8つの単極性の縦フェーダーを扱えます。これらはDAW内でMIDIマッピング可能です。

Custom 2では、CCが15-22に設定されている8つの双極性の横フェーダーを扱えます。これらはDAW内でMIDIマッピング可能です。

Custom 3はドラムラックのレイアウトになっており、ノートモードのドラムラックレイアウトに対応します。一定のレイアウトになっており、Abletonのドラムラックと対応するものではありません。

Custom 4はクロマチックレイアウトになっており、ピアノの白鍵と黒鍵で構成される伝統的なキーボードを示します。

Custom 5はプログラムチェンジメッセージ0-63を扱えます。

Custom 6はプログラムチェンジメッセージ64-127を扱えます。

Custom 7はCustom 3の無点灯バージョンであり、MIDIノートはこのレイアウトに送ることで受信するノートのベロシティに対応した色でパッドが点灯します。以前のバージョンのLaunchpadシリーズのUser 1にあたるカスタムモードです。

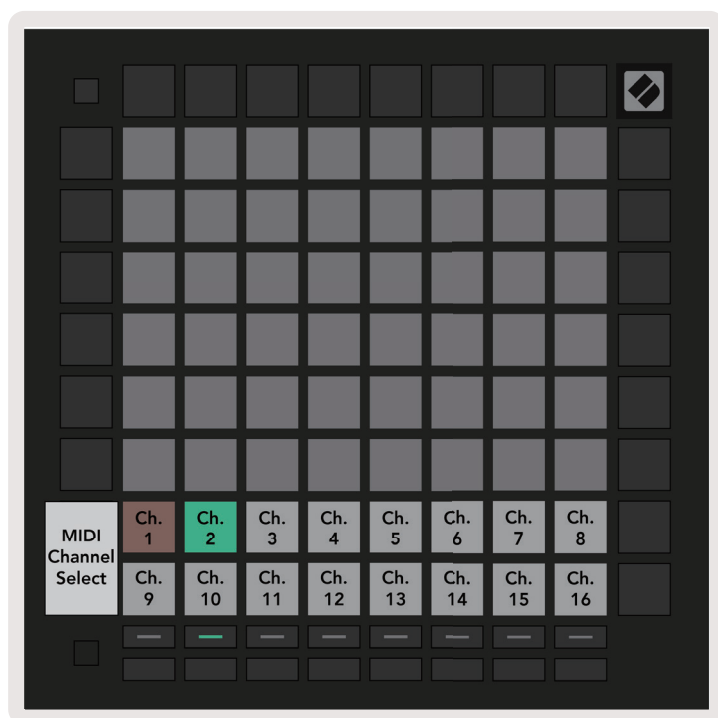
Custom 8無点灯のレイアウトであり、プログラマーモードのレイアウトと対応します。MIDIノートを送ることで受信するノートのベロシティに対応した色でパッドが点灯します。以前のバージョンのLaunchpadシリーズのUser 2にあたるカスタムモードです。

8.3 カスタムモード マスターMIDIチャンネル

カスタムモードのマスターチャンネルは、[Shift]を押したまま[Custom]を押すことで設定できます。

下二列のパッドが選択されているカスタムモードのマスターMIDIチャンネルを示し、チャンネル1-16から設定できます。各カスタムモードが独自のマスターチャンネルを持っている場合にもそれぞれ設定できます。

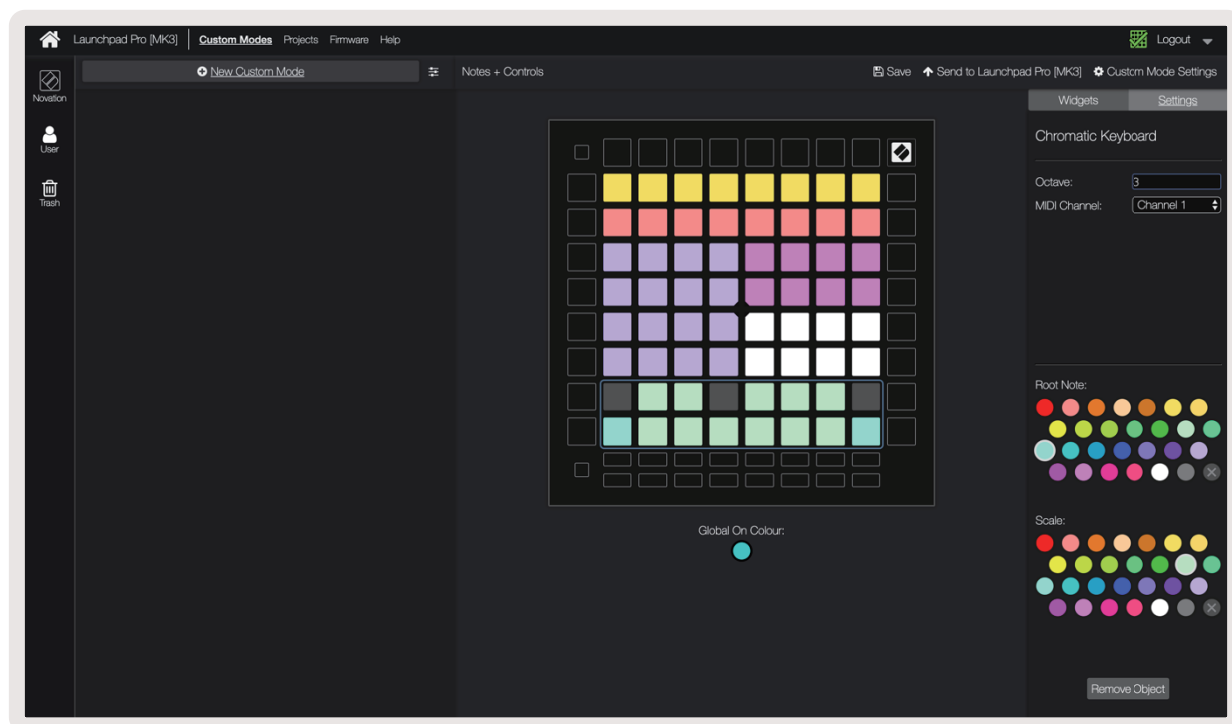
トラック選択ボタンを使って別のカスタムモードを選択できます。現在選択されているカスタムモードは緑に点灯し、対応するマスターチャンネルも緑色に点灯します。選択されていないカスタムモードのマスターチャンネルは暗い赤に点灯します。



8.3.A – カスタムモードのマスターチャンネルを選択する

8.4 カスタムモードのセットアップ

カスタムモードをセットアップするには、Novation Componentsを開いてLaunchpad Proをコンピュータに接続します。



8.4.A – Novation Componentsでカスタムモードをセットアップする

カスタムモード内では、8x8グリッド上の各パッドがノート、CC (コントロールチェンジ)、またはプログラムチェンジメッセージとして機能します。

パッドはトグル、トリガー、またはモーメンタリ切り替えとして作用します。モーメンタリ切り替えでは、パッドが押されるとノートが有効になり、パッドから指が離れた瞬間にノートが無効になります。トリガーは常に特定のCC値またはプログラムチェンジメッセージを送信します。

パッド全体でフェーダーとしても機能します。フェーダーにはCC値がアサインされ、単極性または双極性に設定されるほか、横方向または縦方向に配置されます。

カスタムモード内のパッドは、押された場合／トグルされた場合に「オン」または「オフ」の色が割り当てられます。(例: ノートが演奏されている間または一時的なCCチェンジがトグルされた場合) カスタムモードごとに「オン」の色はひとつのみですが、各パッドにはそれぞれの「オフ」の色が設定されます。

カスタムモードでは、ノート、CC、プログラムチェンジ、フェーダーを組み合わせることで、独自のニーズに合わせた設定を行うことができます。

カスタムモードの作成方法に関するより実践的な内容については、Componentsチュートリアルをご利用いただけます。

8.5 外部MIDIを使ってパッドを点灯させる

デフォルトでは、Custom 7およびCustom 8の全てのパッドが点灯しませんが、Launchpad ProにMIDIノートメッセージを送ることで、ノートナンバーおよびベロシティにしたがってパッドが点灯します。送信するノートによってどのパッドが光るか定義され、ノートのベロシティはその色を定義します。

Launchpad ProのRGB LEDは127色を出力することができ、プログラマーリファレンスガイドでそれらを確認できます。

さらに、全てのパッドとボタンはプログラマーモードで点灯させることができます。

パッドの光らせ方や、ソフトウェア用コントロールサーフェスとしてのLaunchpad Proの使用に関する詳細は、プログラマーリファレンスガイドで確認できます。ガイドは、[customer.novationmusic.com/ support/ downloads](https://customer.novationmusic.com/support/downloads)よりダウンロード可能です。

9. シーケンサー

9.1 シーケンサー概要

Launchpad Proにはパワフルな4トラックのシーケンサーが搭載されており、ソフトウェア／ハードウェアと一緒に使用することができます。シーケンサーにはクリエイティビティを刺激する様々な機能が備わっており、面白いアイデアを生むのに役立ちます。

お持ちのソフトウェアのシーケンスを組みたい場合、まずUSBでLaunchpad Proをコンピュータに接続します。この時、ソフトウェアと、制御を行うシーケンサートラックのMIDIチャンネルが同じに設定されていることを確認してください。Launchpad ProのシーケンサートラックのMIDIチャンネルを変更する方法については、[9.13 シーケンサー設定](#)を参照してください。

付属のTRSミニジャック - MIDI DINアダプタ、MIDIケーブルを使用して、シーケンサーのデータをMIDI Outポートからハードウェアにも送信できます。付属の電源アダプターとUSB-Cケーブルを使って本体に電源を供給すれば、コンピュータ無しでもLaunchpad Proのシーケンサーを使用できます。

9.2 ステップビュー

ステップビューでは、グリッドの上半分のエリアが32ステップで構成される一つのパターンを示します。再生ボタンを押すと、再生カーソルを示す白いパッドがパターン内を進行し、最後のステップまで到達すると最初のステップに戻ります。再生ボタンを再度押すと再生が停止し、白いパッドの動きも止まります。

グリッドの下半分はプレイ（演奏）エリアとなっており、パッドを押してノートを演奏することができます。

9.2.1 プレイエリアを使用する

プレイエリアがクロマチックまたはスケールトラックの場合、上下の矢印ボタンを使ってノートのオクターブを上下させることができます。また、ドラムトラックの場合には16ノート分（フルの4x4グリッド分）移動させられます。左右の矢印ボタンでは、一列（4ノート分）ずつドラムラックを移動させられます。



9.2.1.A – ステップビューのレイアウト

9.2.2 ステップにノートのアサインする

プレイエリア内のノートを押さえながらステップを押すことで、ステップにノートのアサインすることができ、最大8ノートを各ステップに割り当てられます。ステップを押すと、プレイエリアのアサインされているノートが赤く点灯します。

また、ステップを先に押さえたままプレイエリアのノートを押すことでも、ノートを経由してステップにアサインできます。プレイエリア内のノートを押さえることで、そのノートがどのステップにアサインされているか確認できます。ノートを短く押さえると、そのノートがアサインされているステップが赤く点灯します。複数のノート（コードなど）が押さえられると、それらの全ノートが含まれているステップが赤く点灯します。

9.2.3 ステップの削除

ステップにアサインしたノートは、Clearを押さえながらステップを押すことで削除できます。ステップを押さえながらプレイエリアのアサインされているノート（赤く点灯しているノート）を押すことで、ステップからノートを個別に削除することも可能です。

9.2.4 ステップの複製

ステップを複製するには、Duplicateを押さえながらコピーするステップを押し、引き続きDuplicateを押したままペースト先のステップを押します。Duplicateを押さえている間は、複製されたステップを複数回ペーストすることができます。

9.2.5 再生

再生ボタンを押すと、パターンの頭から再生されます。また、Shiftを押さえながら再生ボタンを押すことで、最後にシーケンスの再生が停止された場所から再生を始められます (Shiftを押さえると、再生ボタンが薄いオレンジに点灯します)。

9.2.6 シーケンサーに録音する

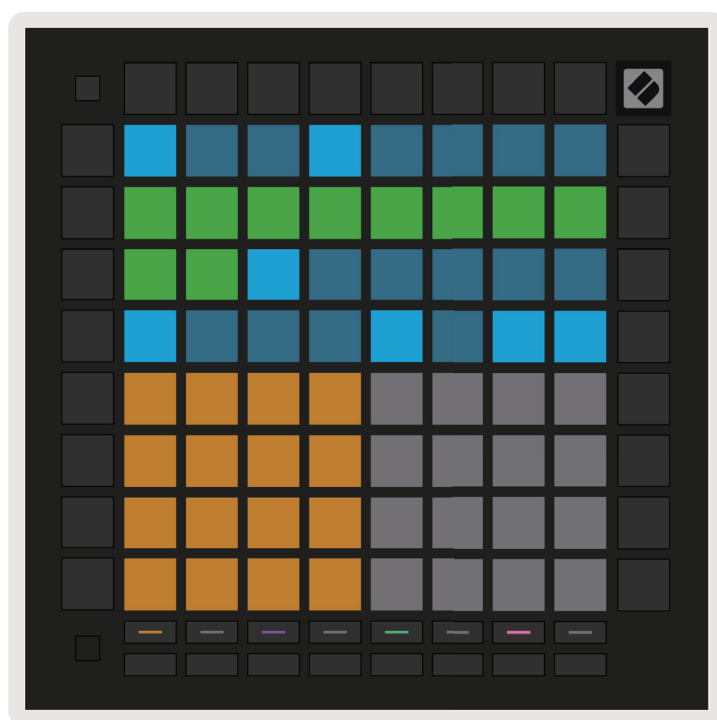
録音ボタン [O]を押すと、リアルタイムにシーケンサーへ録音できます。録音ボタンが赤く点灯している場合、録音が可能な状態を表します。この場合、シーケンサーの再生中にプレイエリアで演奏されるノートはシーケンサーに録音され、USBまたはTRS MIDI Inポートを介して外部から受信するMIDIも録音されます。

9.2.7 ゲートの長さを設定する

ステップ上のノートのゲートの長さを設定するには、緑色に点滅するまでステップを押さえます。そのままステップを押さえながらパターン内のその他のステップを押すと、その場所まで (緑色に点滅しているパッドの分だけ) ノートの長さが設定されます。

ゲートの長さを1ステップ分に戻す場合、ゲートレンジ2を表すパッドを2回押します。2回押すとゲートが1ステップ分に戻ります。

下図では、押さえているステップのゲートの長さが10ステップとなっており、10個の緑色のパッドで表されています。



9.2.7.A – パターン内の9番目のステップのゲートの長さが10ステップとなっており10の緑色のパッドで示されている

9.2.8 複数のシーケンサートラックを使用する

Launchpad Proでは4つの独立したシーケンサートラックを使用でき、点灯しているトラック選択ボタンを押して選択します。各トラックには特定の色が割り当てられ、トラック選択ボタンとプレイエリアの色が一致します。4つ全てのトラックを同時に演奏できます。



9.2.8.A – 4つのシーケンサートラックは色分けされる

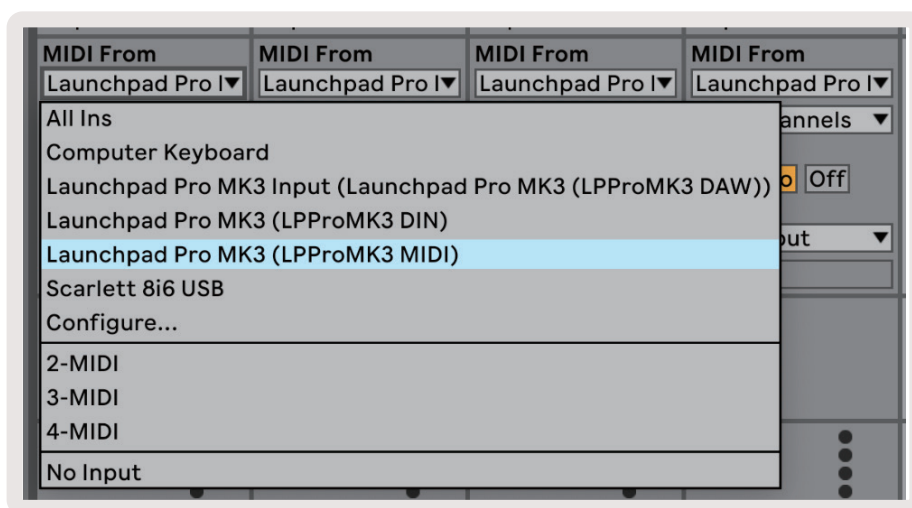
9.2.9 シーケンサーをAbleton Liveと使用する

各トラックをどのMIDIチャンネルからAbleton Liveに送信するかを意識しておく必要があります。デフォルトでは、Live内のMIDIトラックは全チャンネルからの入力を受信します。つまり、複数のシーケンサートラックでパターンを再生している場合、それらのノートがAbleton Live内で録音アームされている全てのトラックで再生されるということです。

Liveと一緒にシーケンサートラックを再生させるためのセットアップ方法はいくつか存在します。以下が例です。

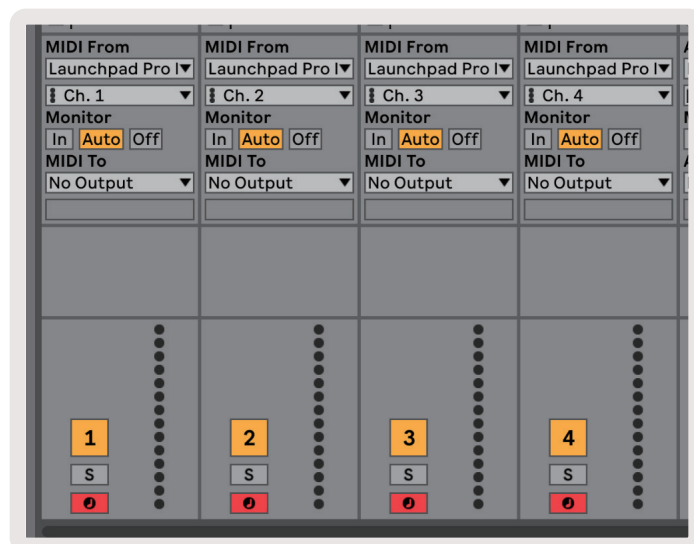
Macの場合、Live内で使用したいトラックが“Launchpad Pro MK3 (LProMK3 MIDI)”からMIDIを受信するように設定します。

Windowsの場合、MIDIを“LProMK3 MIDI (MIDI 1)”から受信するよう設定します。



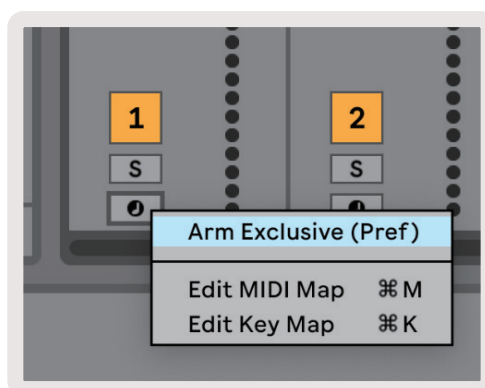
9.2.9.A – (Mac) 正しいLaunchpad ProポートからMIDIを受信するよう設定する

次に、各トラックがLaunchpad Proのシーケンサートラックごとに異なるチャンネルからMIDIを受信するよう設定します。デフォルトでは、チャンネル1,2,3,4がトラック1,2,3,4にそれぞれ設定されています。シーケンサートラックのMIDIチャンネルの変更方法については、[9.13 シーケンサー設定](#) を参照してください。



9.2.9.B – 各トラックのMIDIチャンネルがLaunchpad Proと一致するように設定する

ここでは、必ずLive内の[Monitor]が[Auto]に設定されているかどうかを確認し、command (Mac) / Ctrl (Windows) を押しながら4トラック全ての録音アームをオンにします。録音アームボタンを右クリックして[排他アーム]を無効にすることで、command / Ctrlを押さずに複数のトラックをアームすることが可能です。



9.2.9.C – Ableton Liveでの排他アーム設定

9.3 パターンビュー

Launchpad Pro上の各32ステップで構成されるシーケンスはパターンと呼ばれます。パターンを利用すれば、複数のセクションから構成されるトラックを構築できます。各トラックではプロジェクトごとに8パターンにアクセスでき、Patternsページから自分のパターンを確認できます。現在再生されているパターンが点滅し、これがステップビュー上で示されるパターンとなります。



9.3.A – Patternsビュー

9.3.1 パターンをチェーン化する

パターンは、2つのパターンを同時に押すことでチェーン化することができ、これによってチェーンの開始点と終了点が定められます。再生ボタンを押すとパターンが交互に再生され、ひとつのチェーンは最大8パターン（計256ステップ）で構成できます。

9.3.2 パターンのキュー

再生中にパターン（またはパターンチェーン）を押すと、そのパターンがキュー（再生待機状態に）され次に再生されます。キューされたパターン（またはチェーン）は素早く点滅してキューされたことを示し、現在再生されているパターンが終了点まで到達しだい再生されます。

9.3.3 パターンの削除

[Clear]を押さえながらパターンを押すことでパターンの削除を行えます。

9.3.4 パターンの複製

パターンを複製するには、[Duplicate]を押さえながらコピーするパターンを押し、引き続きDuplicateを押したままペースト先のパターンスロットを押します。Duplicateを押さえ続けている間は、複製されたパターンを複数回ペーストすることができます。

9.3.5 即座にパターンを変更する

シーケンサーが再生中にパターン同士を即座に切り替えたい場合には、[Shift]を押さえながらパターン（パター

ンチェーン)を選ぶことでパターンがただちに切り替わります。切り替わった新しいパターンは、開始点から再生されていたものとしてシーケンサーにカウントされます。

ヒント：異なる長さをもつパターン間でキューされた切り替えがトラックのタイミングからずれた場合、この方法でパターンを切り替えることでタイミングが元に戻ります。

9.4 シーン

シーンを利用することで、全トラックに及ぶ複数のパターンをワンプッシュでトリガーでき、チェーン化することで楽曲を長くすることができます。シーンはパターンビュー下部の16の白いパッドで示されます。

9.4.1 シーンにアサインする

シーンのパッドを長押しすると、どのパターンがそのシーンにアサインされているか確認できます。少し遅れてアサインされているパターン(またはパターンチェーン)が赤く点灯します。

パターンをシーンにアサインするには、シーンを押さえながらパターン(またはパターンチェーン)パッドを押します。この操作はシーケンサーが現在再生しているものには影響を与えません。新しくアサインされたパターンチェーンは、再度そのシーンを選択するか、そのシーンチェーンがそのシーンに戻ってきた場合にのみ実行されます。この操作は、パターンチェーンを押さえながらアサインするシーンを押すことでも行えます。

現在のパターンチェーンが現在のシーンに保存されているものと一致しない場合にシーンが緑色から白に変わること、そのパターンチェーンが実行されたどうかを確認することができます。

9.4.2 シーンをチェーン化する

2つのシーンを同時に押すことで、複数のシーンをチェーン化することができます。これにより、チェーンの開始点と終了点が定められます。再生ボタンを押すとシーンが交互に再生され、全てのトラックがそのパターンチェーンを最低一回完全に再生し終わると、シーンが次のシーンへと移ります。

9.4.3 シーンのキュー

シーンのキューも、パターンと同じ方法で行えます。シーケンサーが再生中に新しいシーン(またはシーンチェーン)を選択すると、そのシーンがキューされます。キューされたシーンはすばやく点滅し、トラック1で現在再生されているパターンが終了点まで再生されると新しいシーン(またはシーンチェーン)がタイミングを保ったまま開始点から再生を始めます。

シーケンサーが再生中に[Shift]を押さえながらシーン(またはシーンチェーン)を選ぶことでシーンがただちに切り替わります。切り替わった新しいシーンチェーンは、開始点から再生されていたものとしてシーケンサーにカウントされます。

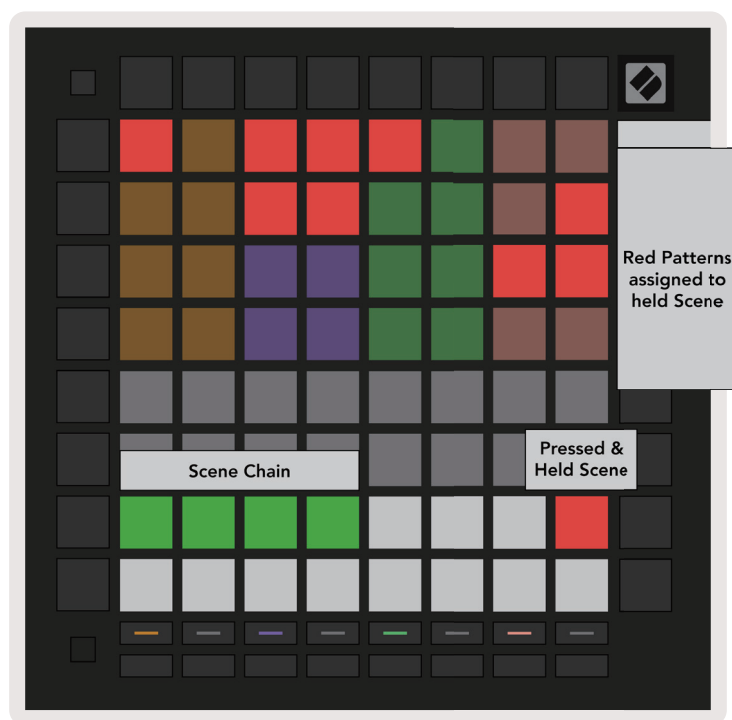
ヒント：異なる長さをもつシーン間でキューされた切り替えがトラックのタイミングからずれた場合、この方法でシーンを切り替えることでタイミングが元に戻ります。

9.4.4 シーンを削除する

[Clear]を押さえながらシーンを押すことで、シーンを削除できます。これにより、シーンがデフォルトの状態（全てのトラックに対してパターン1）に戻ります。

9.4.5 シーンを複製する

シーンを複製するには、[Duplicate]を押さえながらコピーするシーンを押し、引き続きDuplicateを押したままペースト先のシーンスロットを押します。Duplicateを押さえている間は、複製されたシーンを複数回ペーストすることができます。



9.4.5.A – パターンビュー下部最大16のパッドエリアでシーンが表示される

9.5 パターン設定

パターン設定では、パターン内でステップが再生される方法を変更できます。

[Pattern Settings]が選択されると、プレイエリアの上半分で現在再生されているパターンの再生方法を変更できるようになります。

9.5.1 パターンの同期レート

薄いオレンジで示される8つのパッドでは、パターンの同期レートと各ステップの長さ、つまり現在のテンポに対してパターンが再生されるスピードを設定できます。

同期レートは1/4, 1/4T, 1/8, 1/8T, 1/16, 1/16T, 1/32, 1/32Tより選択でき、"T"は三連符を表します。

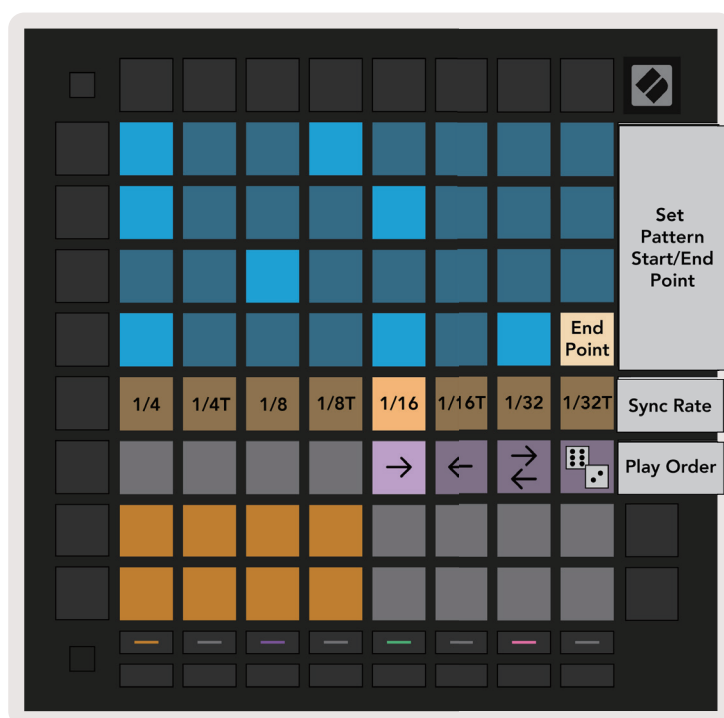
デフォルトでは1/16に設定されており、1ステップが16分音符を示します。同期レートを増やすことでシーケンサーの細かいステップを編集できる代わりに、再生されるひとつのパターンが短くなります。逆に、同期レートを減らすことで長いパターンを作れますが、細かい編集ができないため、長く鳴り続けるパッドなどに適しています。

9.5.2 パターン再生の進行方向

薄ピンクで示される4つのパッドでは、再生の進行方向を設定できます。進行方向は次の4種類から選択できます（左から右の順に）：

- 前方 - パターンの開始点から終了点まで順番にステップが再生されます。
- 後方 - パターンの終了点から開始点まで逆の順番でステップが再生されます。
- ピンポン - 前方と後方の進行方向を交互に繰り返します。開始点と終了点のステップは2度再生されるためタイミングは維持されますが、パターンの長さが倍になります。
- ランダム - 再生時に各ステップがランダムに選択されます。一回のパターンサイクル内で各ステップが再生される数は決まっていますが、他のパターンとチェーン化した場合パターンの長さは保たれます。

再生中にパターン設定に変更が加えられた場合、現在再生中のパターンがサイクルの終了点に到達した際に新しいパターン設定が適用されます。



9.5.2.A – パターン設定ビュー

9.5.3 パターンの開始点と終了点

パターンの開始点と終了点は、パターン設定内でも変更できます。ステップを押すと現在操作しているパターンの終了ステップを選択でき、終了ステップが肌色で示されます。[Shift]を長押しすると現在のパターンの開始点が肌色で示されます。Shiftを押さえている間は、終了ステップと同じように開始ステップも変更できます。

選択された開始点および終了点から外れているステップにノートがアサインされている場合、暗い赤で示され、アサインされていないステップは点灯しません。

9.6 ベロシティ

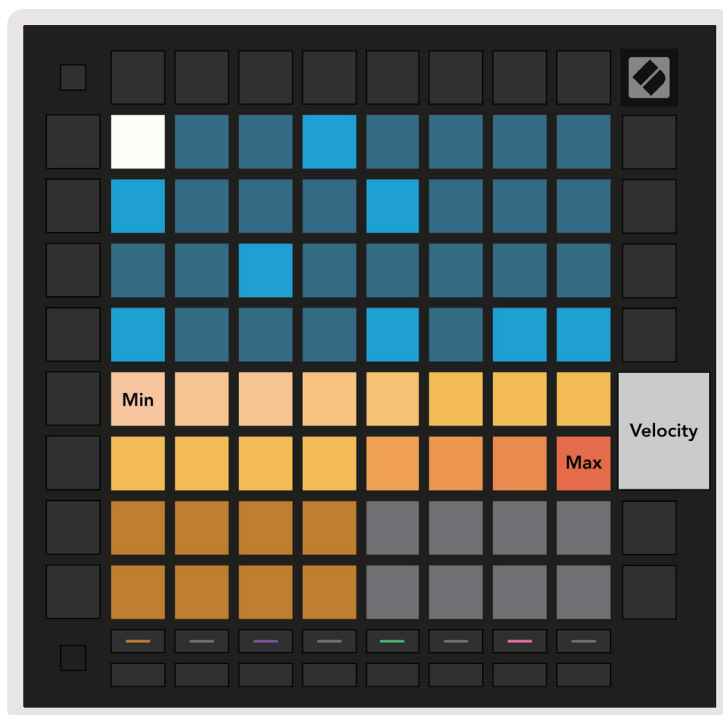
9.6.1 ステップのベロシティ編集

[Velocity]を押すことで、各ステップのベロシティを確認／編集できます。

ここでは、プレイエリアの上2段が現在選択されているステップのベロシティ値に対するスライダーとなります。グリッド上半分からパッドを押してステップを選択すると、ベロシティスライダーにそのベロシティ値が示されます。

スライダーを構成するパッドを押すことで、そのステップ上のノートのベロシティを最小1から最大16まで選択できます。

複数のノートを持つひとつのステップのベロシティを手作業で編集する場合、そのステップ上の全てのノートは同じベロシティ値となります。



9.8.1.A – Velocityビュー

9.6.2 リアルタイム録音でのベロシティ

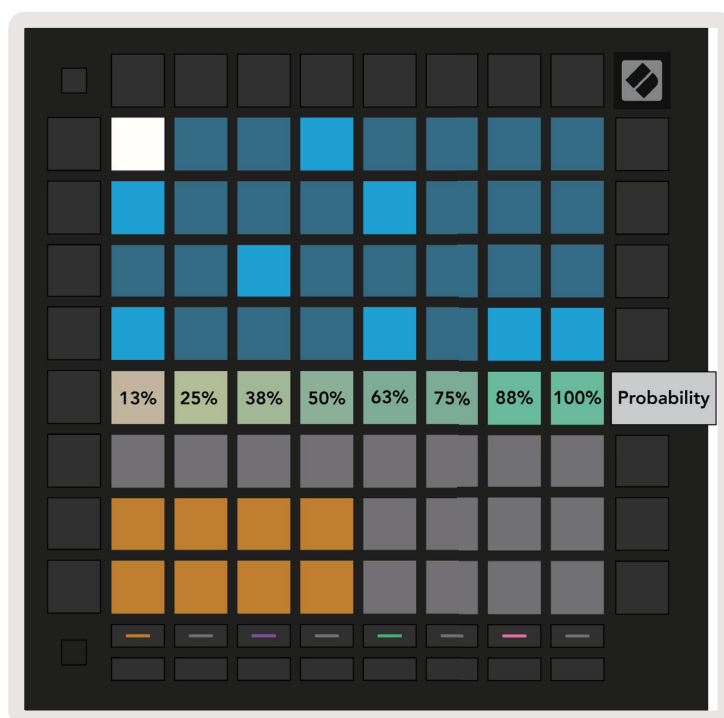
リアルタイム録音を行う際、様々なベロシティ値を持つ複数のノートがひとつのステップに録音される場合があります。こういった際には、ベロシティ値の範囲がパッドの明るさで表されます。明るく点灯するパッドは最も低いベロシティ値を示し、暗いパッドは最大ベロシティ値までの範囲を示します。

9.7 プロバビリティー

"プロバビリティー"は変化し続けるシーケンスを構築するためのパワフルなツールであり、ドラムシーケンスにバリエーションや驚きの展開を加えるのに便利な機能です。

9.7.1 ステップのプロバビリティーを編集する

[Probability]を押すことで、ステップ上のノートがトリガーされるプロバビリティー（確率）を確認／編集できます。ここでは、プレイエリアの上2段が現在選択されているステップのプロバビリティー値に対するスライダーとなります。



9.7.1.A – Probabilityビュー

グリッド上半分からパッドを押してステップを選択すると、そのステップに対するプロバビリティー値がプロバビリティースライダーによって示されます。

スライダーを構成するパッドを押すことで、そのステップのプロバビリティーを最小1から最大8まで選択できます。各プロバビリティー値は以下のように設定されています。

1. 13% (1つのパッドが点灯)
2. 25%
3. 38%

4. 50%
5. 63%
6. 75%
7. 88%
8. 100% (8つのパッドが点灯)

複数のノートを持つステップに関しては、各ノートに対してプロバビリティーが独立して機能します。例えば、2つのノートを含むひとつのステップに対してプロバビリティーが50%でアサインされている場合、各ノートがトリガーされる確率が50%というように設定されます。つまり、1つのノートのみが演奏される場合と、両方のノートが演奏される場合、どちらのノートも演奏されない場合があり、各ノートが演奏される確率はそれぞれ独立して50%となります。

ひとつのステップには1種類のプロバビリティー値しか設定できないため、同じステップ上の一方のノートに対して100%、もう一方のノートに対して25%、といった設定は行えません。

録音またはノートをアサインする際のデフォルトのプロバビリティー値は100%となっており、ステップ上の全てのノートが必ず演奏されます。ステップ、パターン、プロジェクトを削除した場合、全てのプロバビリティー値が100%に戻されます。

9.7.2 プロバビリティーをAbleton Live上に保存する

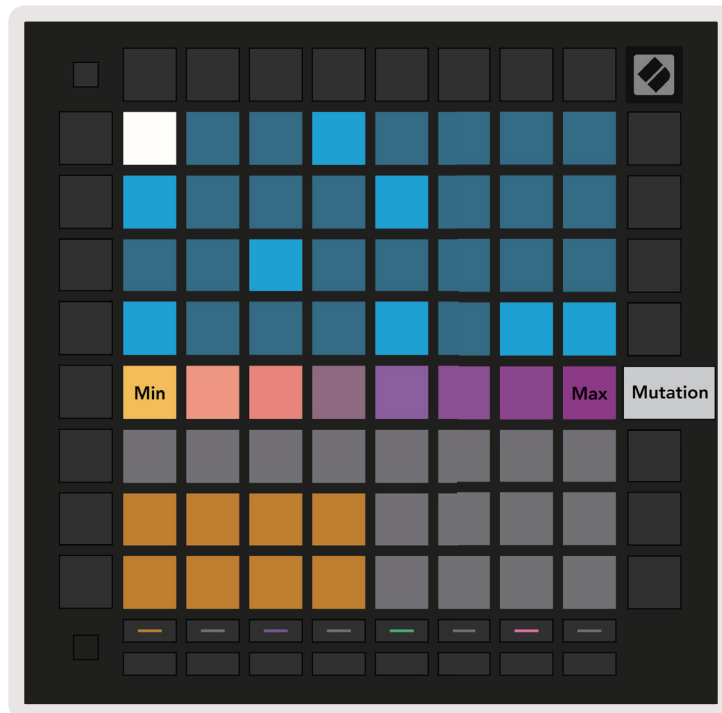
作成したパターンをAbleton Live内に移動させる ("Print to Clip"機能) と、関連する各ステップに対するプロバビリティーが一度のみ計算されます。Ableton Live内にパターンを複数回コピーして、複数のクリップにまたがるパターンのバリエーションを作る際に便利です。この機能の詳細に関しては、[9.11 パターンをAbleton Live内のクリップとして保存する \(Print to Clip\)](#) をご確認ください。

9.8 ミューテーション

ミューテーション機能では、シーケンスに対してさらなるランダムな要素を加えます。ステップにミューテーションを適用することで、再生時にノートのピッチがランダムに変化します。

9.8.1 ステップのミューテーションを編集する

Mutationを押すことで、ステップ上のノートに対して設定されているミューテーションを確認／編集できます。



9.8.1.A – Mutationビュー

ここでは、プレイエリアの上2段が現在選択されているステップのミューテーション値に対するスライダーとなります。グリッド上半分からパッドを押してステップを選択すると、スライダーにそのミューテーション値が示されます。ミューテーション値は8種類から選択でき、一番左のパッドが表す最小値ではミューテーションが全く適用されない状態を、一番右のパッドでは最大値を表します。

新しくアサインされたステップや録音されたステップは、常にミューテーション値がゼロ(1つのパッドのみ点灯)になっています。

9.8.2 ミューテーションをAbleton Live上に保存する

作成したパターンをAbleton Live内に移動させる("Print to Clip")と、関連する各ステップに対してミューテーションが一度のみ適用されます。Ableton Live内にパターンを複数回コピーして、複数のクリップにまたがるパターンのバリエーションを作る際に便利です。この機能の詳細に関しては、[9.11 パターンをAbleton Live内のクリップとして保存する\(Print to Clip\)](#)をご確認ください。

ミューテーションとプロバビリティーを一緒に使用することで、変化し続ける有機的なパターンを作成できます。こうして出来上がったパターンをAbleton Liveに移動して、新しいアイデアを完成させていくと良いでしょう。

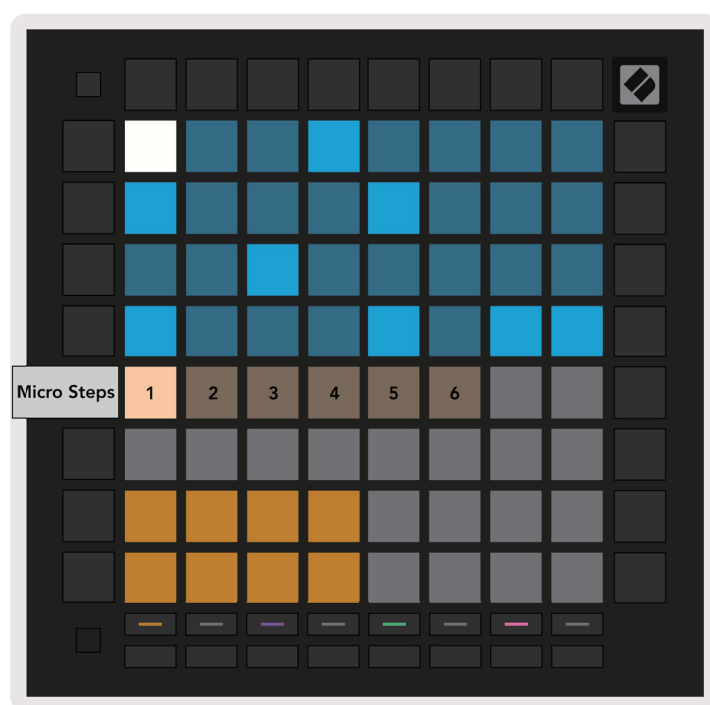
9.9 マイクロステップ

マイクロステップを利用することで、ノートの配置をより細かく行うことができます。爪弾くようなエフェクトや、素早く単一のノートをリトリガーするのに最適です。

9.9.1 マイクロステップを編集する

[Micro-Step]を押すことで、ノートの配置を編集できます。ここでは、プレイエリアの一番上の段、左から6つのパッドが現在選択されているステップに対するマイクロステップを示します。グリッド上半分のパッドを押すことで、ステップを選択できます。

プレイエリア内のノートを押さえながらマイクロステップを押すことで、そのマイクロステップを直接アサインできます。また、マイクロステップを押さえながら、すでにアサインされているプレイエリア内のノート(赤)を押すと、ノートのアサインを解除できます。



9.9.1.A – Micro-Step編集ビュー

9.9.2 マイクロステップを削除する

マイクロステップにアサインしたノートは、Clearを押さえながらマイクロステップを押すことで削除できます。ステップを押さえながらプレイエリアのアサインされているノート(赤く点灯しているノート)を押すことで、ステップからノートを個別に削除することも可能です。

9.9.3 マイクロステップを複製する

マイクロステップを複製するには、Duplicateを押さえながらコピーするマイクロステップを押し、引き続きDuplicateを押したままペースト先のマイクロステップを押します。マイクロステップを複製する際に、そのステップ全体に含まれるノートの数が最大の8より多い場合、複製は行われません。

9.10 テンポとスウィング

Tempo / Swingでは、BPM (Beats Per Minute / 1分あたりの拍数)とトラックのスウィングを調整できます。

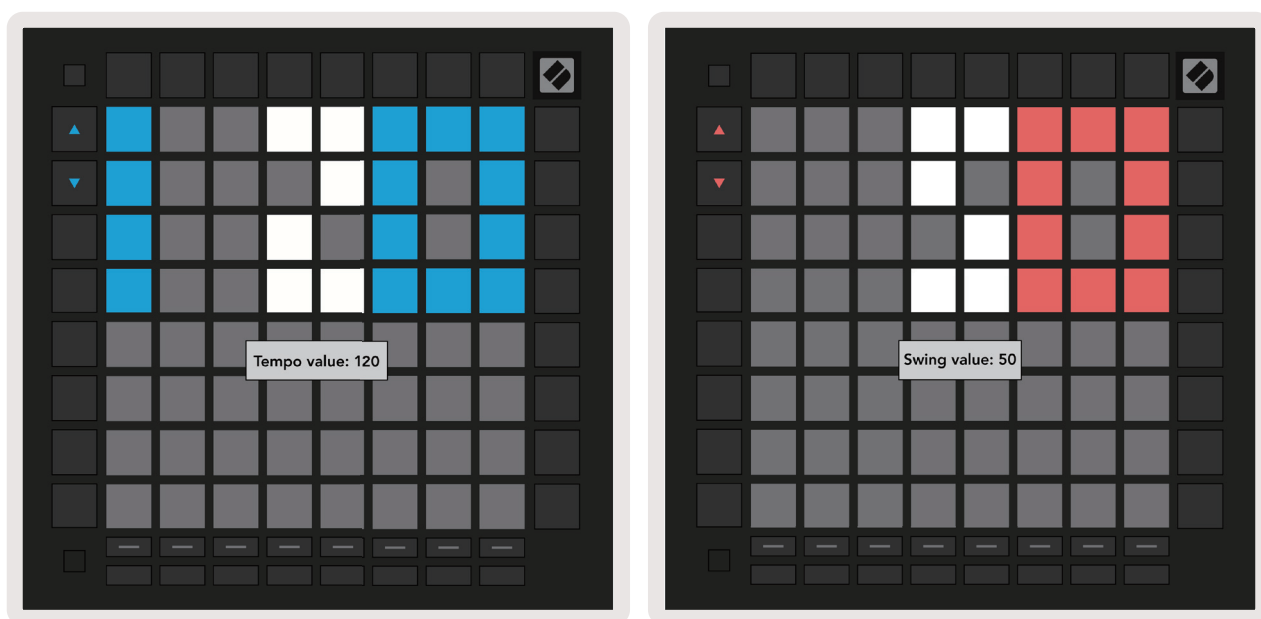
9.10.1 テンポとスウィングを編集する

[Shift]を押さえながら[Device]または[Stop Clip]を押すことで、それぞれTempo / Swingビューにアクセスできます。

テンポビュー (青/白) では、グリッド上に現在のテンポがbpmで表示されます。

スウィングビュー (オレンジ/白) では、現在のスウィング値が表示されます。51以上の数字はプラスのスウィング値を示し、拍からずれているノートは遅れてトリガーされます。一方、50以下の数字はマイナスのスウィング値を示し、拍からずれているノートは早めてトリガーされます。

左側に配置された上下の矢印ボタンではテンポおよびスウィングを変更でき、長押しすることで素早く値を変更できます。



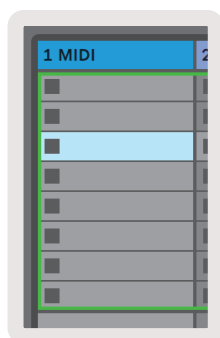
9.10.1.A – Tempo / Swingビュー

9.11 Ableton Live上のクリップに保存する (Print to Clip)

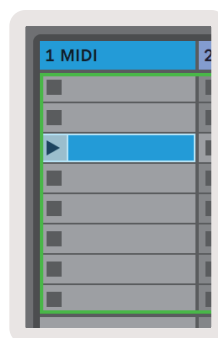
Launchpad Pro上で作ったシーケンサーのパターンは、すぐにAbleton Liveに転送でき、録音することなくクリップスロットに配置できます。アイデアをシーケンサーからAbleton Liveに移動させ、さらに複雑なトラックを構築するのに極めて便利な機能です。

[Print to Clip]ボタンから、この機能にアクセスできます。

Launchpad Pro上でシーケンスを作成したら、Live内のクリップスロットをマウスで選択してからLaunchpad Pro上の[Print to Clip]を押すことで、そのシーケンスをLive上に配置できます。これにより、現在選択しているトラックに対するパターンまたはパターンチェーンがLiveに移動されます。



9.11.A - 選択された空のクリップスロット



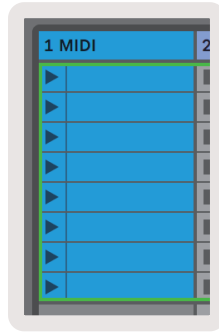
9.11.B - [Print to Clip]を押すと同じクリップスロット上にクリップが配置される

または、Launchpad Pro上のセッションビューで[Shift]を押さながら8x8グリッド上のパッドを押すことでも、クリップスロットを選択できます。

空のクリップスロットを選択している状態では、選んでいるパターンがそのスロット内にクリップとして配置されますが、すでにクリップが配置されているクリップスロットを選択している状態で[Print to Clip]を押すと、そのクリップの下に空のクリップスロットにそのシーケンサーパターンが配置されます。これによって、パターンを複数回配置しても既存のクリップに上書きされる心配がありません。

パターンビュー内でも[Print to Clip]機能を使用できます。[Print to Clip]を押さながらトラック選択ボタンを押すと、[Print to Clip]を押さえている間そのトラック選択ボタンが点滅し、現在選択されているトラック上で現在選択されているパターンまたはパターンチェーンがAbleton Liveに転送されます。

Ableton Live Liteを使用していて、1トラックで使用可能な8つ全てのクリップスロットがすでに埋まってしまっている場合、[Print to Clip]ボタンが消灯し、転送できるクリップスロットが無いことを示します。



9.11.C – (Ableton Live Liteのみ) 8つのクリップスロットが埋まっている場合[Print to Clip]が使用できなくなる

[Print to Clip] ボタンの機能はAbleton Liveを接続している場合のみ利用できます。

9.12 プロジェクト

パターン、シーン、スケール／ルート、トラックタイプ、トラックチャンネルなどシーケンサー全体を総称してプロジェクトと呼びます。プロジェクトは64種類保存できるため、Launchpad Pro上で多くのトラックを構築できます。

9.12.1 シーケンサープロジェクトを保存する

シーケンサーのいずれのビュー（ステップビュー、プロジェクトビュー、パターンビュー）からもプロジェクトを保存できます。ステップ／プロジェクト／パターンビューで[Shift]を押さえながら[Projects]ボタンを押して保存を開始すると、[Save]ボタンが白く点滅するので、その状態の間に[Projects]をもう一度押すことで現在のプロジェクトが有効なプロジェクトスロットに保存されます。すると、[Save]ボタンが短く点滅し、本体が保存作業を行っていることを示します。この間はいかなる操作も無効となります。[Shift]、[Projects]、[Setup]以外のいずれかのボタンを押すことで保存画面を終了することもできます。

プロジェクトビューを操作している間、現在のプロジェクトを別のプロジェクトスロットに保存することも可能です。[Shift]を押さえながら[Projects]を押して保存を始めると、[Save]ボタンが白く点滅するので、トラック選択ボタンを使ってそのプロジェクトを保存したい色を8色の中から選択します。次に、任意のプロジェクトスロットを押して現在操作しているセッションをそのスロットに保存します。[Save]ボタンとパッドが短く点滅し、プロジェクトが保存されたことを示します。

保存されたプロジェクトには、ノート／コードモードの設定やカスタムモードのマスターMIDIチャンネル情報も保存されます。

9.12.2 プロジェクトのバックアップを行う

Novation Componentsを利用すれば、作成したプロジェクトをオンライン上にバックアップできます。

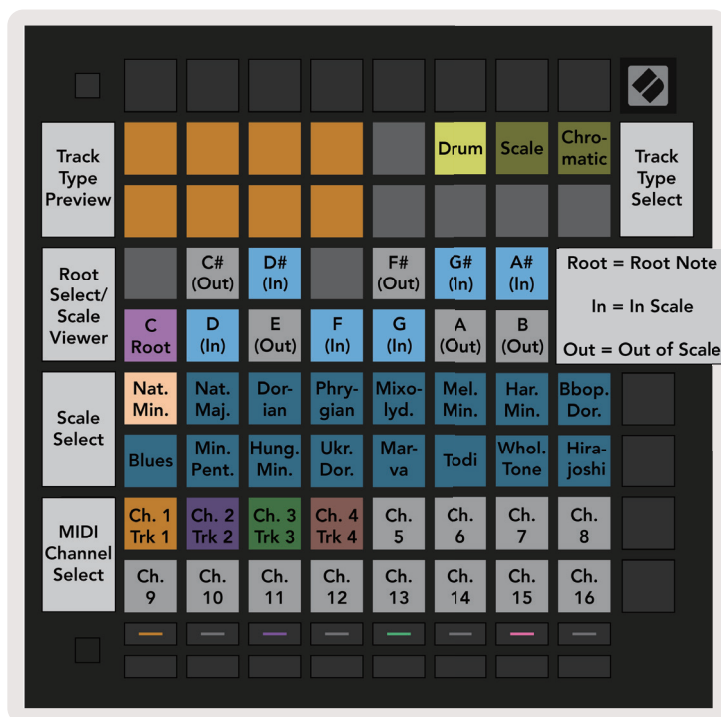
Novation ComponentsはNovation全製品のためのオンラインエディター／データ保管ツールであり、Web-MIDI対応のブラウザ（Google ChromeまたはOpera推奨）でアクセスするか、Novation Customer Portalよりスタンドアロン版をダウンロードして利用できます。

9.13 シーケンサー設定

シーケンサー設定では、現在のスケール／ルート音、各トラックのタイプ（ドラム、スケール、クロマチック）、各トラックが送信を行うMIDIチャンネルを変更できます。

9.13.1 シーケンサー設定を開く

[Shift]を押さえながら[Sequencer]を押すことで、シーケンサー設定にアクセスできます。



9.13.1.A - シーケンサー設定ビュー

9.13.2 トラックタイプ

トラックタイプはドラム、スケール、クロマチックが用意されており、グリッド右上3つのパッドを使用して選択します。トラック選択ボタンを押して変更を加えるトラックを選択します。

左上4x2のセクションでは、トラックタイプのプレビューを確認できます。これは、各トラックタイプでのプレイエリアのレイアウト左側部分を表します。

9.13.3 ルート選択／スケールビューワー

Root Select/Scale Viewerではどのノートが現在選択されているスケール内に含まれているか、ピアノ鍵盤のレイアウトで示されます。青いパッドはスケール内のノートを、ピンクのパッドはそのルート音を、暗く白に点灯しているパッドはスケール外のノートを示します。スケールビューワー内のパッドを押すとそのスケールのルート音を変更できます。選択されたルート音はノート／コード／シーケンサーモードで共通して適用されます。

9.13.4 スケール選択

スケールは16種類から選択できます。パッドを押してスケールを選択すると、選択されたスケールが明るい白に点灯し、選択されていないスケールは暗い青に点灯します。選択されたスケールはノート／コード／シーケンサーモードで共通して適用されます。

以下のスケールから選択できます：

ナチュラルマイナー	ハーモニックマイナー	マルヴァ
ナチュラルメジャー	ビバップドリアン	トディ
ドリアン	ブルース	ホールトーン
フリジアン	マイナーペンタトニック	平調子
ミクソリディアン	ハンガリアンマイナー	
メロディックマイナー	ウクライニアンドリアン	

9.13.5 MIDIチャンネル設定

各トラックがMIDIを送信するチャンネルは1-16の中から選択できます。Ableton Live内の複数のインストゥルメントにノートを送りたい場合や、様々な種類のハードウェアを制御したい場合に便利です。

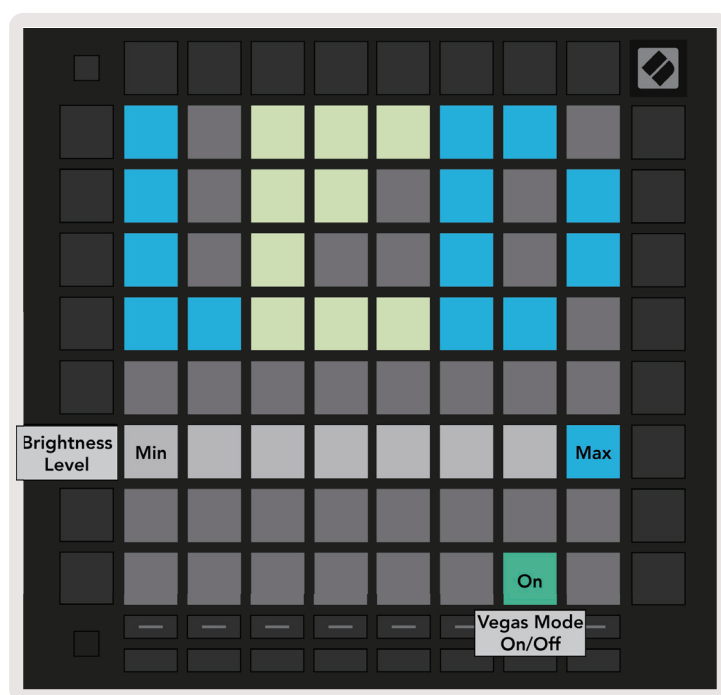
10. セットアップ

10.1 セットアップメニュー

Launchpad Proのセットアップメニューでは、本体のあらゆる側面にわたって自分の好みの設定を行えます。LED、ペロシティ、アフタータッチ、MIDI、フェーダー動作から構成される5種類のページを利用できます。

[Setup]を長押ししてセットアップメニューに切り替えると、上4段のパッドに「LED」と表示され、現在のメニューを示します。左から5つのトラック選択ボタンを使用して、異なるセットアップページに切り替えられます。

10.2 LED設定



10.2.A - LED設定ビュー

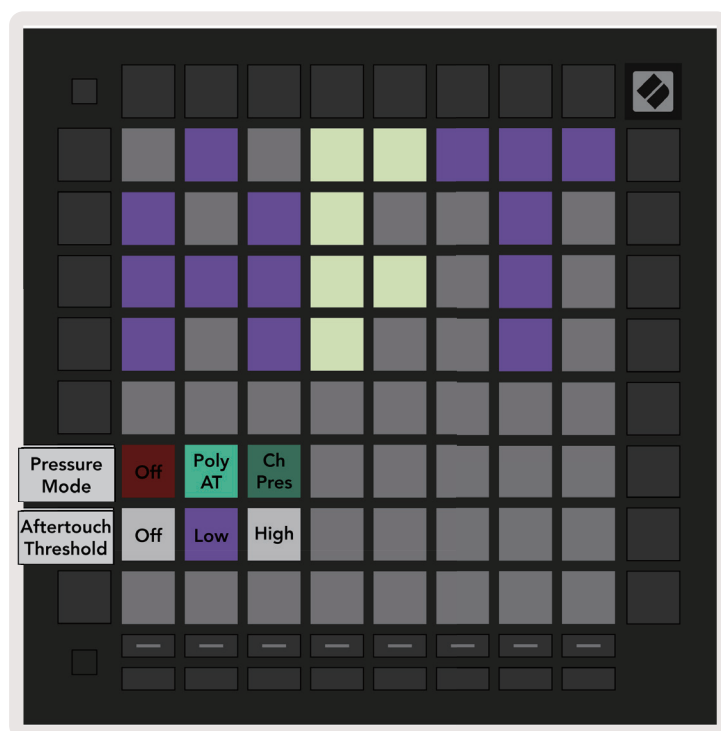
一番左のトラック選択ボタンでは、Launchpad ProのLED設定にアクセスできます。ここでは、LEDの明るさ、フィードバックを変更でき、LEDのスリープも行えます。

LED Brightness Levelスライダーは明るさの度合いを8レベルで示します。現在選択されているレベルが白いパッドで表されます。

Vegas Mode トグルでは、ベガスモード（スリープ）のオンオフを切り替えられます。本体の操作が無い状態が5分続くとベガスモードに切り替わります。トグルが赤く点灯している場合、ベガスモードが無効となっており、緑色の場合は有効となっています。

10.4 アフタータッチ設定

左から三番目のトラック選択ボタンでは、Launchpad Proのアフタータッチ (AFT) 設定にアクセスできます。



10.4.A - アフタータッチ設定ビュー

Pressure Modeでは、アフタータッチオフ、ポリフォニック・アフタータッチ、チャンネルプレッシャーから選択できます。選択されているモードは明るく点灯し、それ以外のパッドは暗く点灯します。

チャンネルプレッシャーでは、単一のプレッシャー値を全てのパッド／ノートに送ります。8x8グリッド全体での一番高いプレッシャー値が送られます。ポリフォニック・アフタータッチでは、各パッド／ノートがそれぞれ個別のプレッシャー値を伝送するため、表現力豊かにインストゥルメントを演奏できます。

ポリフォニック・アフタータッチは現在Ableton Liveではサポートされていないため、チャンネルプレッシャーを使用すると良いでしょう。

Aftertouch Threshold (アフタータッチ・スレッシュヨルド) はOff、Low、Highから選択でき、Offの場合にはパッド／ノートが押されるとただちにプレッシャーメッセージが伝送されます。Lowに選択されている場合、プレッシャーメッセージが送られるまでにスレッシュヨルドプレッシャーに達する必要があります。Highの場合には、プレッシャーメッセージが送られるのに高いプレッシャーが必要とされます。

アフタータッチ・スレッシュヨルドは、パッドを押してすぐにアフタータッチに関連するパラメータを動かしたくない場合に便利です。

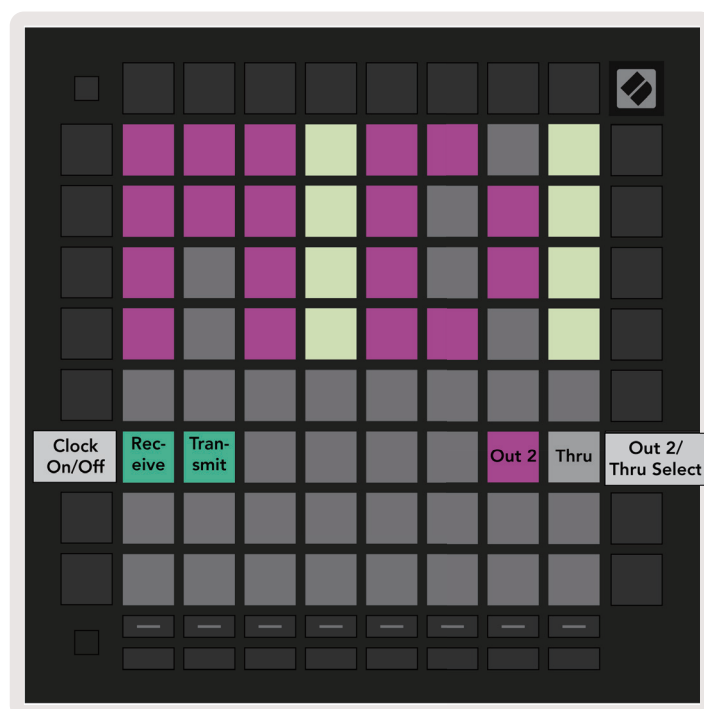
10.5 MIDI設定

左から四番目のトラック選択ボタンでは、MIDI設定にアクセスできます。

Receive (Rx) を押すことで、この機能のオンオフを切り替えられます。オフの場合、受信するクロックメッセージが無視されます。デフォルトではオンに設定されています。

Transmit (Tx) を押すことで、オンオフを切り替えられます。オフの場合、Launchpad Proがクロックメッセージを送信しません。デフォルトではオンに設定されています。

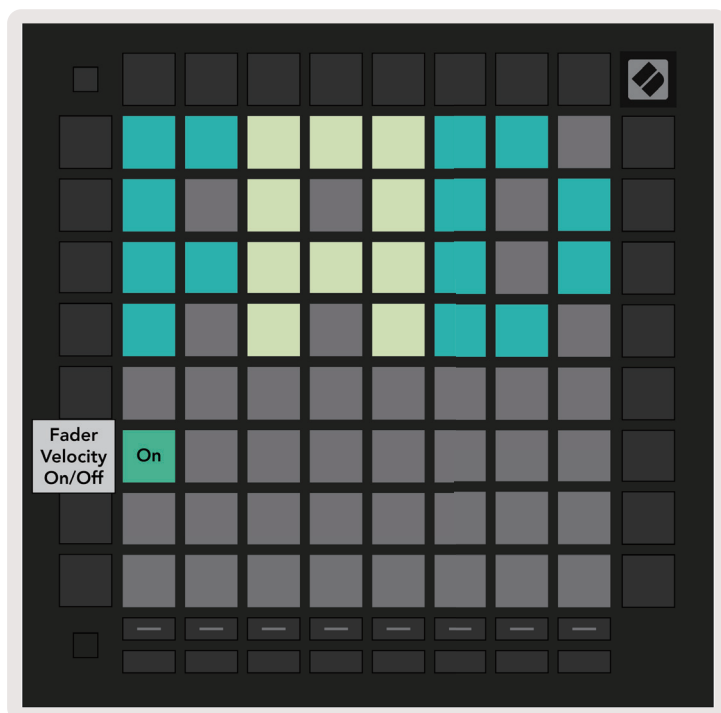
Out2/Thru Selectでは、本体のOut 2/Thru MIDIポートの動作を設定できます。Out 2を選択すると、Out 1が複製される形となり、Thruを選択すると、MIDI Inから受信したメッセージを転送します。



10.5.A - MIDI設定ビュー

10.6 フェーダー設定

左から五番目のトラック選択ボタンでは、フェーダー（FAD）設定にアクセスできます。ここでは、共通設定のベロシティセンシティビティとは独立して、フェーダーに対するベロシティセンシティビティを有効／無効化できます。



10.6.A. フェーダー設定ビュー

フェーダーベロシティのオンオフは上図「Fader Velocity On/Off」パッドで行えます。オンの場合パッドが明るい緑色に点灯し、オフの場合暗い赤に点灯します。

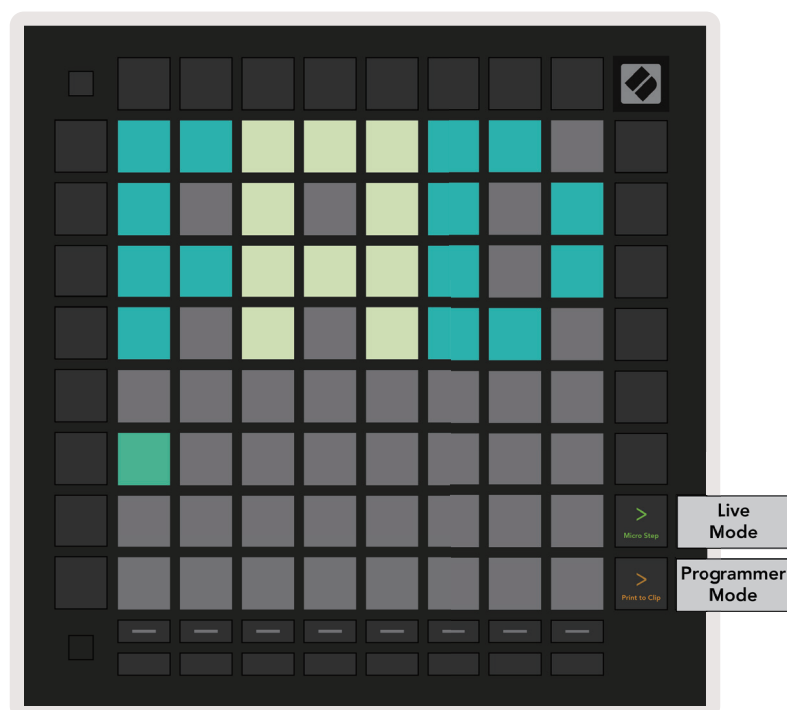
10.7 Liveおよびプログラマーモード

Liveモードでは、セッションモード、ノートモード、コードモード、カスタムモード、シーケンサーといった本マニュアルで記述されている全ての機能を利用できます。Launchpad ProのデフォルトはLiveモードになっています。

もう一方のプログラマーモードは、MIDIメッセージを介して外部からLaunchpad Proを制御する際に使用します。プログラマーモードでは、その他全てのモードや機能にアクセスできなくなります。各パッドやボタンが押されると指定されたMIDIメッセージを送受信します。

[Setup]を長押ししてセットアップメニューを開いてLive／プログラマーモードの切り替えを行います。緑色のシーンローンチボタンでLiveモードへ、オレンジのシーンローンチボタンでプログラマーモードへ切り替ええます。[Setup]ボタンから指が離されるまでモードは切り替わりません。

Launchpad Proの電源を入ると常にLiveモードとなっています。



10.7.A. Live／プログラマーモード選択

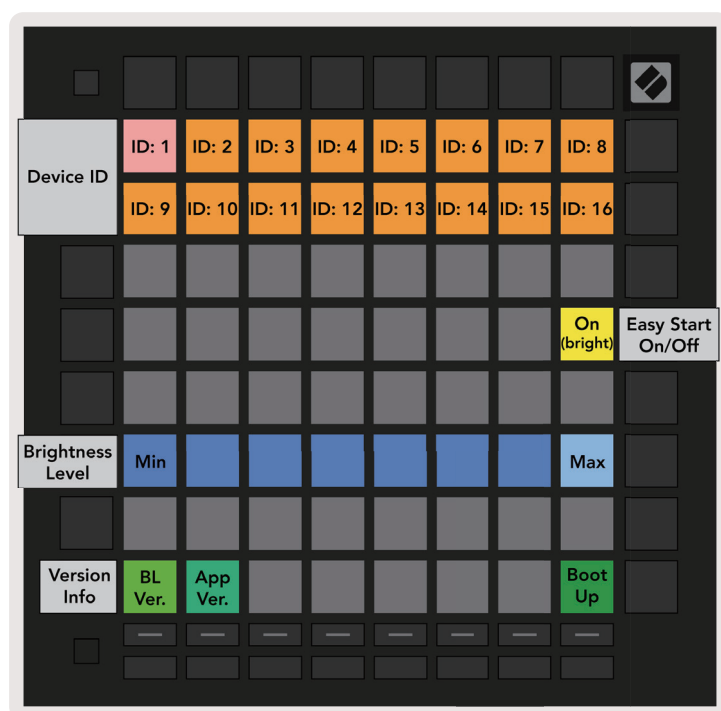
Launchpad Proに該当するMIDIメッセージを送ることでパッドとボタンを点灯させられます。詳細についてはプログラマーリファレンスガイドをご確認ください。以下からダウンロードが可能です：

<https://customer.novationmusic.com/support/downloads>

10.8 ブートローダーメニュー

ブートローダーメニューでは、LEDの明るさ／フィードバック、大容量記憶装置としての挙動、デバイスIDを変更できます。

[Setup]を押さえながらLaunchpad Proをコンピュータに接続することで、ブートローダーメニューに切り替わります。



10.8.A ブートローダーメニュービュー

Brightness Levelでは、LEDの明るさを8段階で設定でき、明るく点灯している白いパッドが現在選択されているレベルを示します。特定のUSBホストデバイスでは、Launchpad Proを完全に起動するのに十分な電源供給を行えない場合がありますが、LEDの明るさのレベルを低くすることで消費電力を抑えられ、完全に起動させることが可能です。

BL Ver. (Bootloader Version) およびApp Ver.のパッドを使用すると、Launchpad Proに現在インストールされているバージョンを確認できます。

Boot Upボタンを押すと、Launchpad Proが通常どおり起動され、ブートローダーメニューが終了します。

Device IDでは、一度に複数のLaunchpad ProをAbleton Liveと一緒に使用できます。各Launchpad Proで異なるID値が選択されている場合、それぞれが独自のセッションビューのエリアを持つため、Liveのセッションを独立して移動することができます。

MSDモードでは、Launchpad Proの大容量記憶装置としての動作のオンオフ切り替えを行えます。一度Launchpad Proをセットアップしたら、コンピュータ上に大容量記憶装置としてLaunchpad Proを表示させたくない場合、上図の[Easy Start On/Off]ボタンでオンオフを切り替えます。パッドが明るく黄色に点灯している場合

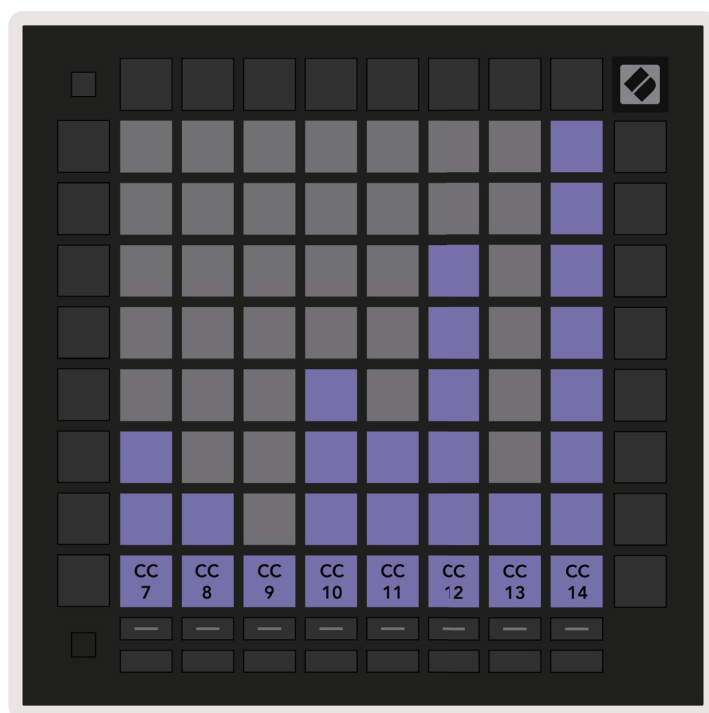
オンを、暗い場合にはオフを示します。

デフォルトではMSDモードがオンになっており、コンピュータに接続した際に大容量記憶装置として表示されます。LAUNCHPADフォルダ内にEasy Start Toolのリンクが含まれており、ここではLaunchpad Proのセットアップを行えます(2. 使用準備を参照)。

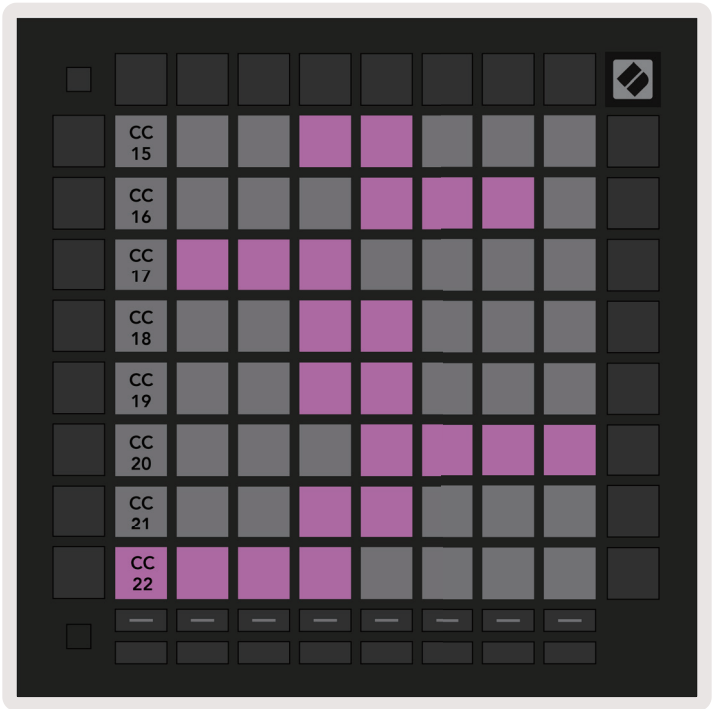
A. 付録

A.1 デフォルトMIDIマッピング

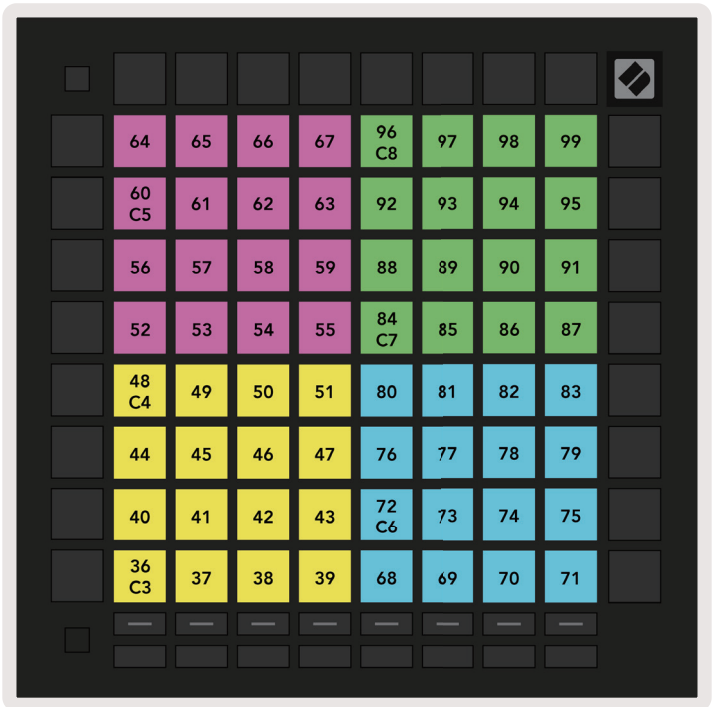
A.1.1 Custom 1:8x8グリッド／8x 縦フェーダー (単極性)／CC番号は以下の通り：



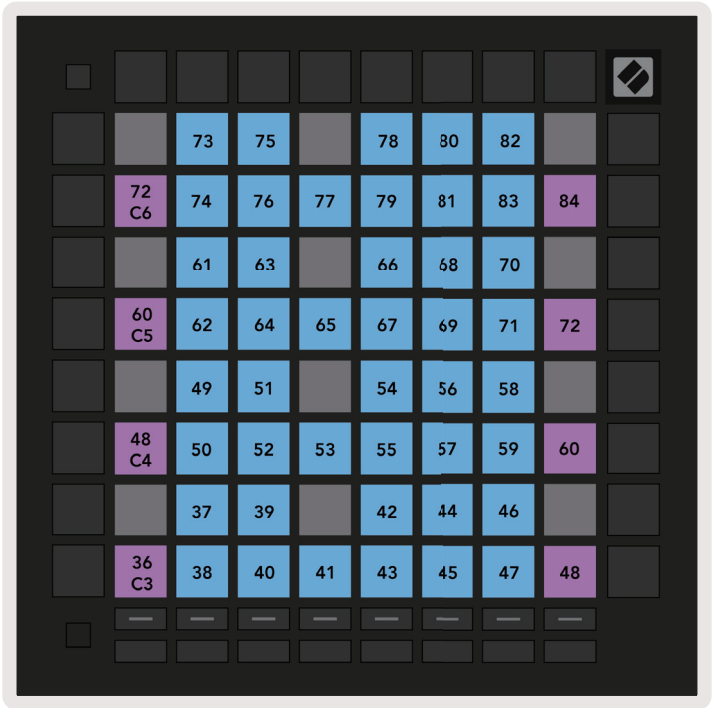
A.1.2 Custom 2:8x8グリッド／8x 横フェーダー（双極性）／CC番号は以下の通り：



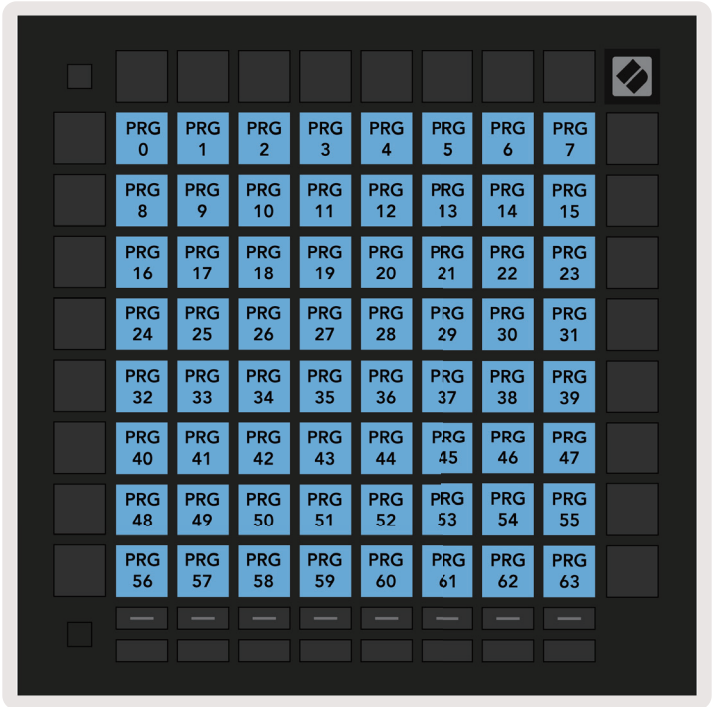
A.1.3 Custom 3:8x8グリッド／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り：



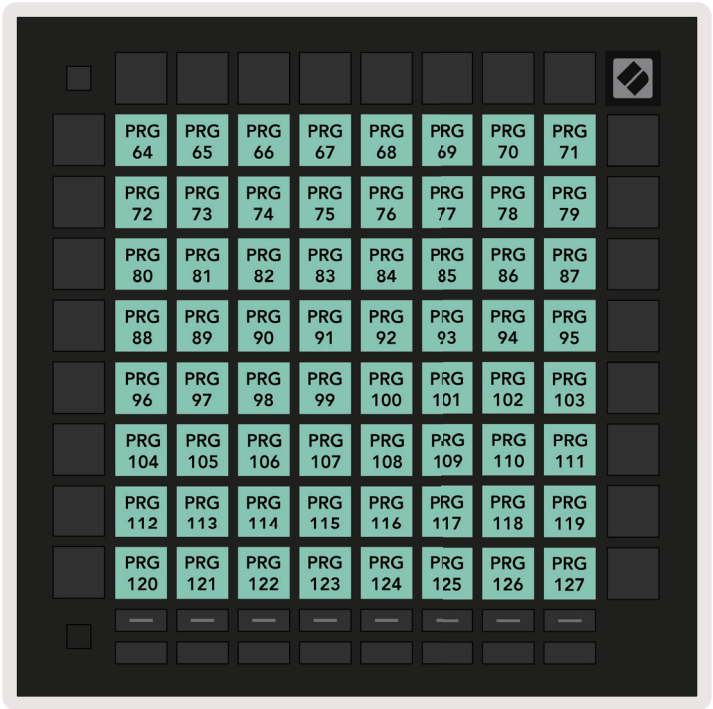
A.1.4 Custom 4:8x8グリッド／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り：



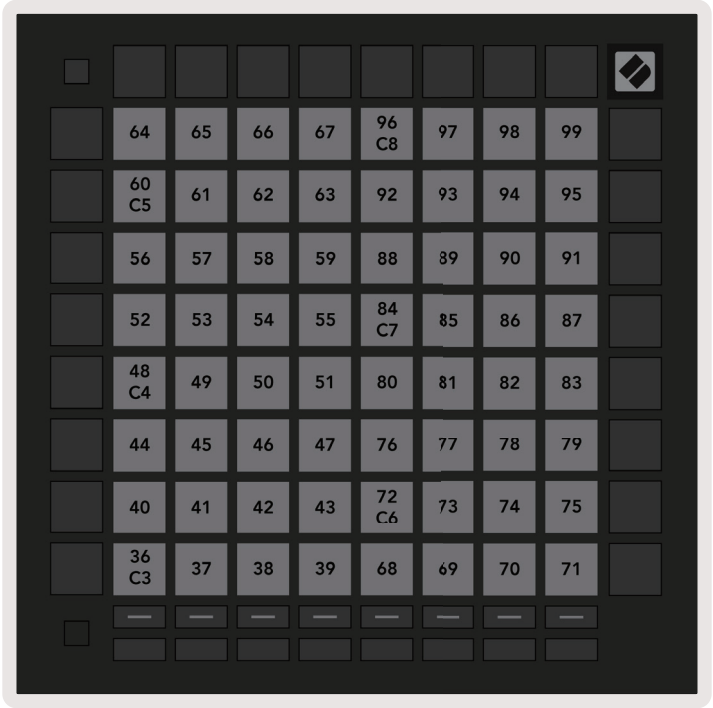
A.1.5 Custom 5:8x8グリッド／プログラムチェンジメッセージ



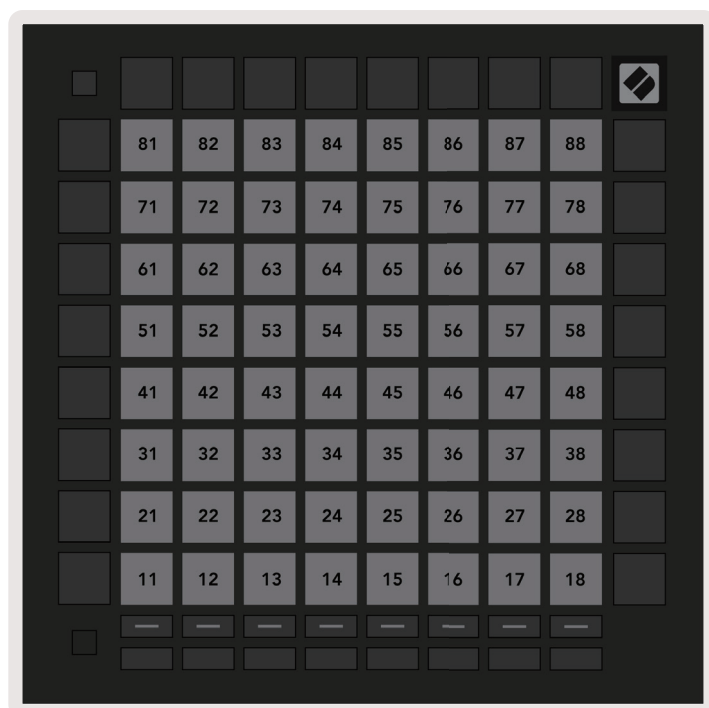
A.1.6 Custom 6:8x8グリッド／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り：



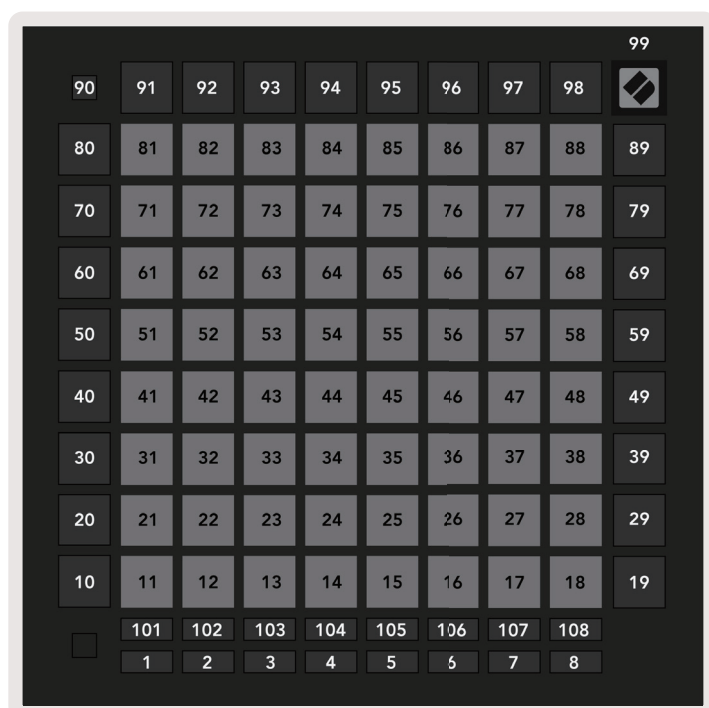
A.1.7 Custom 7:8x8グリッド／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り：



A.1.8 Custom 8:8x8グリッド／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り：



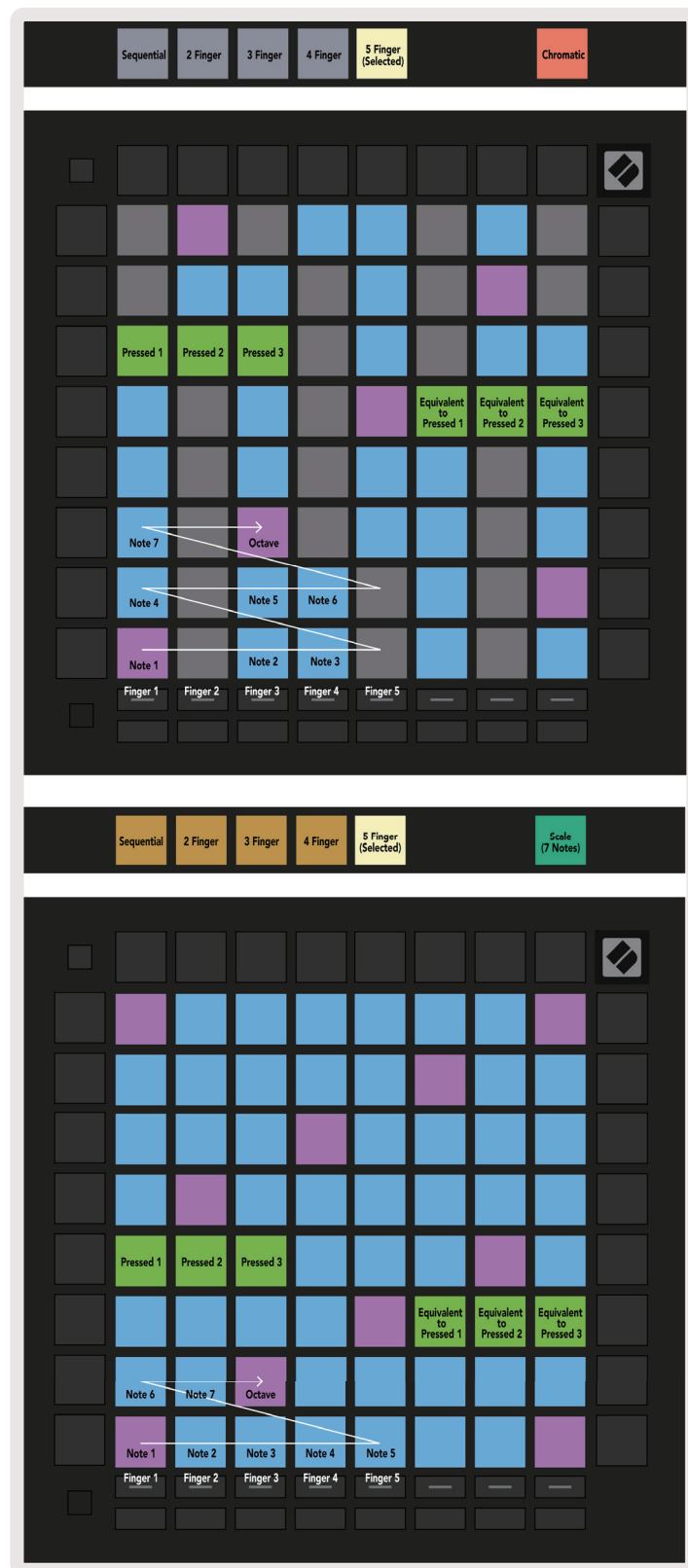
A.1.9 プログラマーモード:ボタンおよびパッド (9x9全グリッド)、ロゴLEDを指定可能／モーメンタリノートオンメッセージ／ノート番号は以下の通り



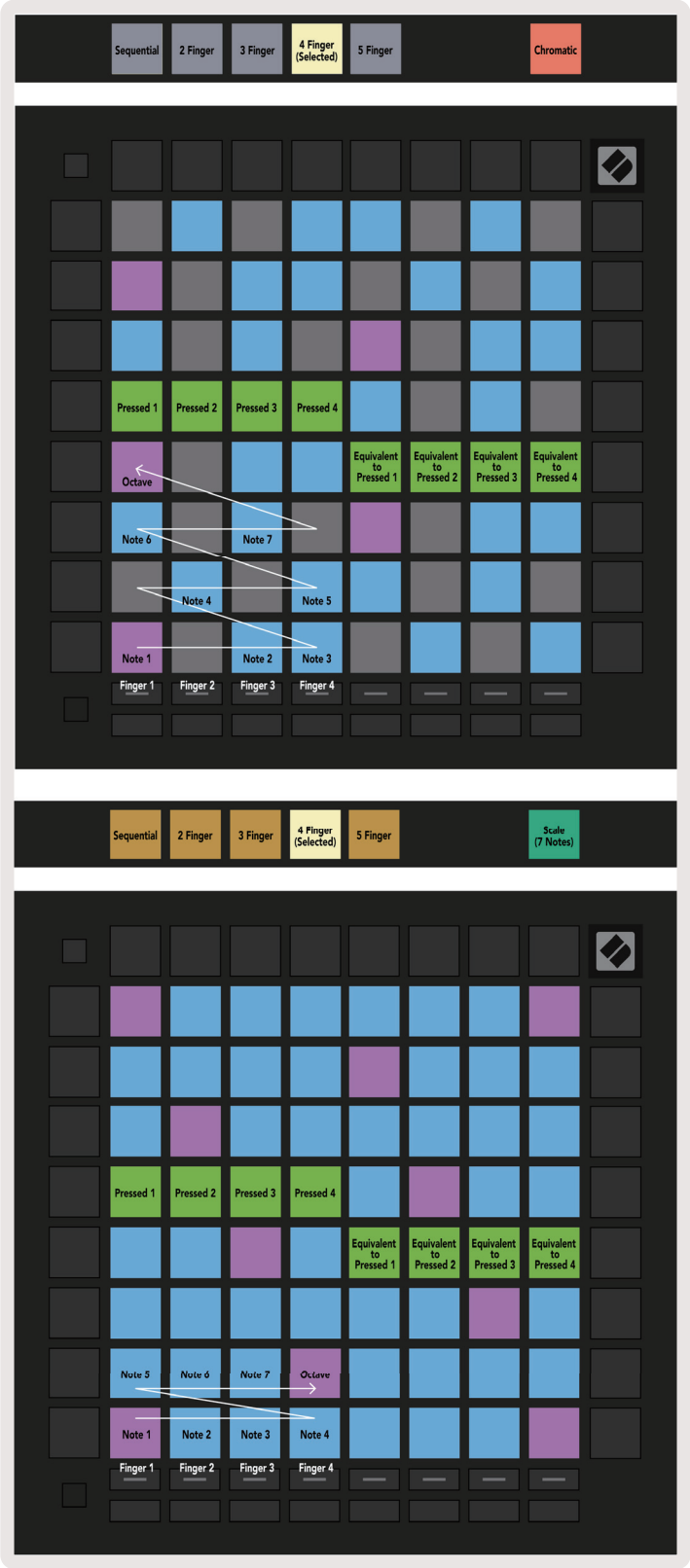
Launchpad ProのMIDIコントロールに関するさらなる詳細は、www.novationmusic.comよりプログラマーリファレンスガイドを参照してください。

A.2 オーバーラップのレイアウト

A.2.1 オーバーラップ - 5本指



A.2.2 オーバーラップ- 4本指



A.2.3 オーバーラップ – シーケンシャル

